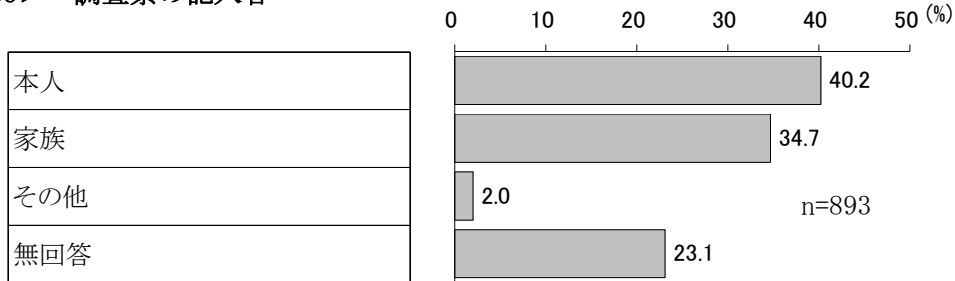


2-2 要支援・要介護認定者調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表 86> 調査票の記入者



②現在の状況（本人の不在の事情）

<図表 87> 現在の状況（本人の不在の事情）

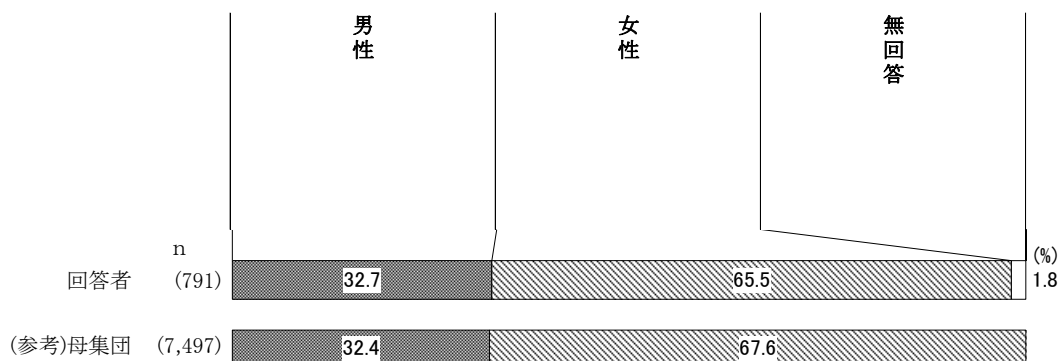
調査数	本人の不在の事情（記入が難しい場合の状況）					非該当
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	
893	47	12	1	7	35	791

以下、記入のあった791人に対する集計結果を示す。

③性別

<図表 88> 性別（母集団との比較）

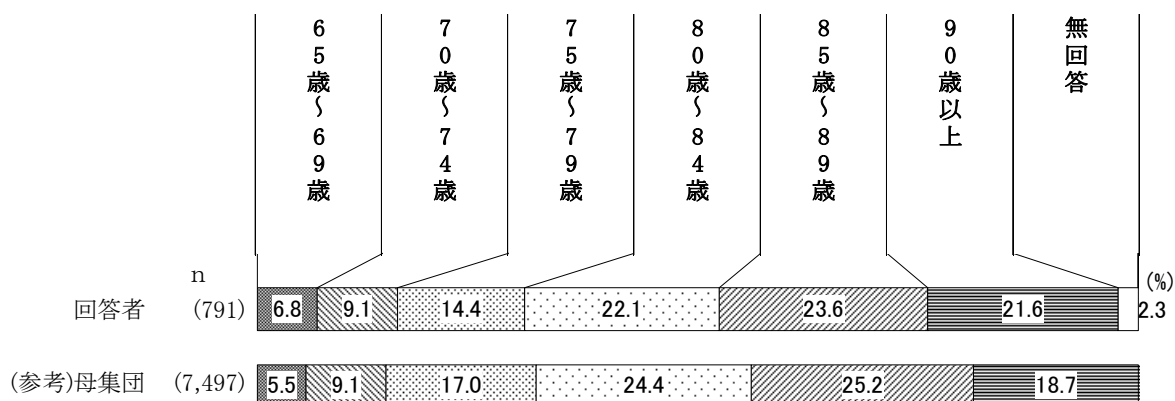
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
男性	259	32.7	2,428	32.4
女性	518	65.5	5,069	67.6
(無回答)	14	1.8		
合計	791	100.0	7,497	100.0



④年齢

<図表 89> 年齢（母集団との比較）

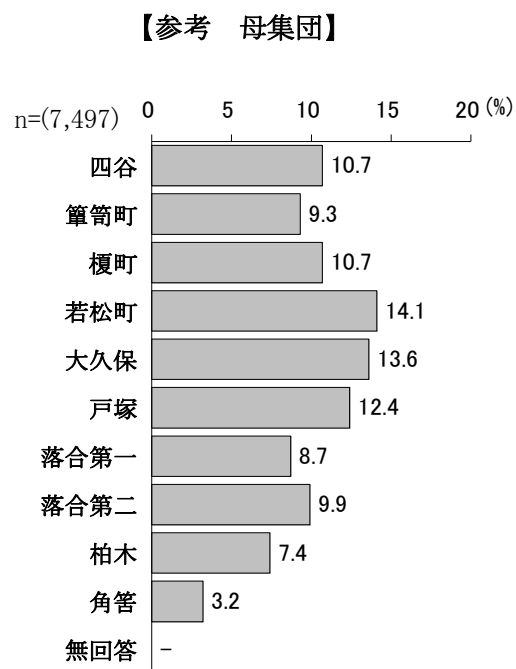
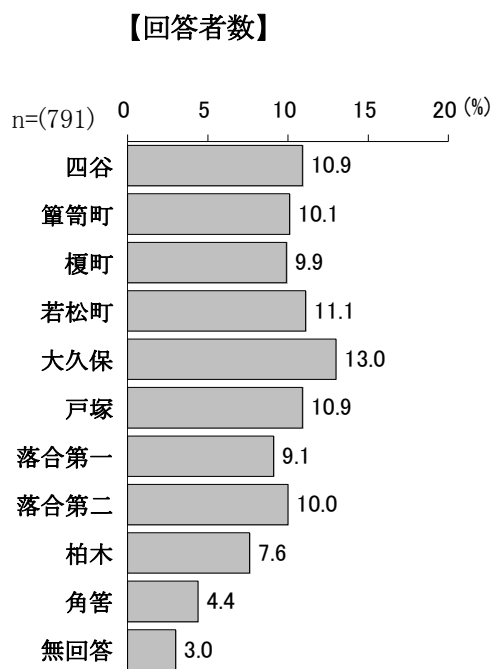
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
65歳～69歳	54	6.8	409	5.5
70歳～74歳	72	9.1	684	9.1
75歳～79歳	114	14.4	1,278	17.0
80歳～84歳	175	22.1	1,830	24.4
85歳～89歳	187	23.6	1,892	25.2
90歳以上	171	21.6	1,404	18.7
(無回答)	18	2.3		
合計	791	100.0	7,497	100.0



⑤お住まいの地区

<図表 90> お住まいの地区（母集団との比較）

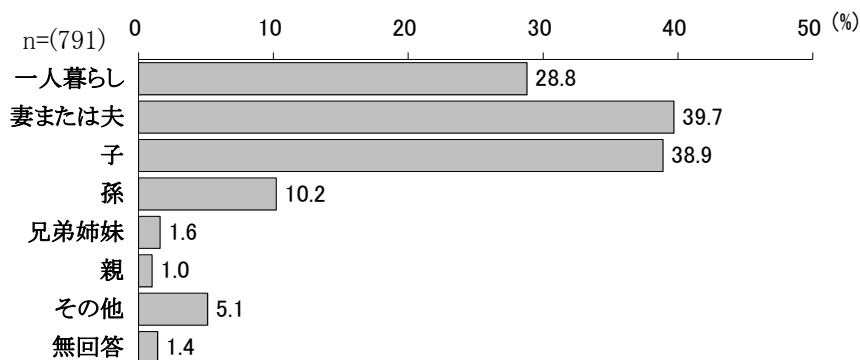
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
四谷	86	10.9	802	10.7
簗笥町	80	10.1	696	9.3
榎町	78	9.9	805	10.7
若松町	88	11.1	1,056	14.1
大久保	103	13.0	1,021	13.6
戸塚	86	10.9	931	12.4
落合第一	72	9.1	651	8.7
落合第二	79	10.0	741	9.9
柏木	60	7.6	555	7.4
角筈	35	4.4	239	3.2
(無回答)	24	3.0		
合計	791	100.0	7,497	100.0



⑥同居者

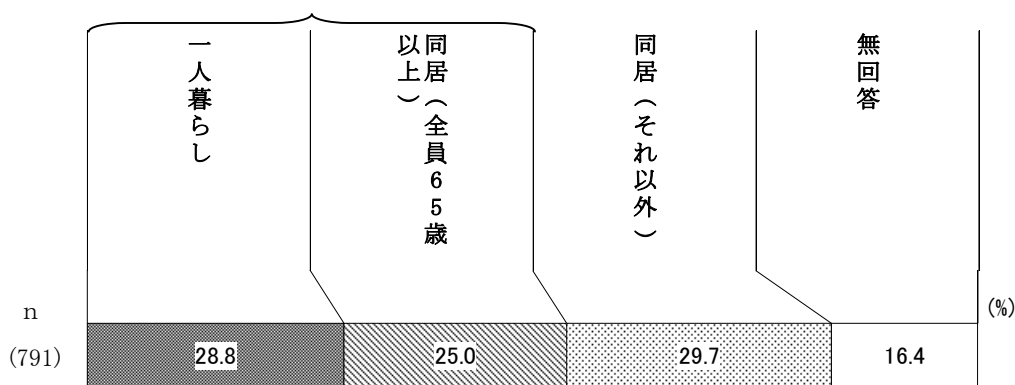
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表 91> 同居者



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(28.8%)が3割近くとなっている。同居者は、「妻または夫」(39.7%)が4割弱、「子」(38.9%)が4割近くとなっている。

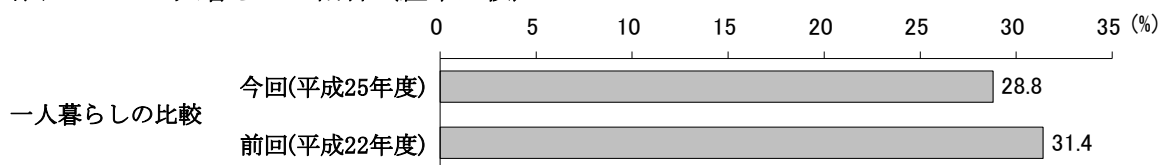
<図表 92> 世帯構成 《高齢者のみ世帯》53.8



※問4の同居者と問4-2の同居者の年齢より集計

世帯構成について、「一人暮らし」(28.8%)と「同居(全員65歳以上)」(25.0%)をあわせた《高齢者のみ世帯》(53.8%)は、5割台半ば近くとなっている。

<図表 93> 一人暮らしの割合(経年比較)

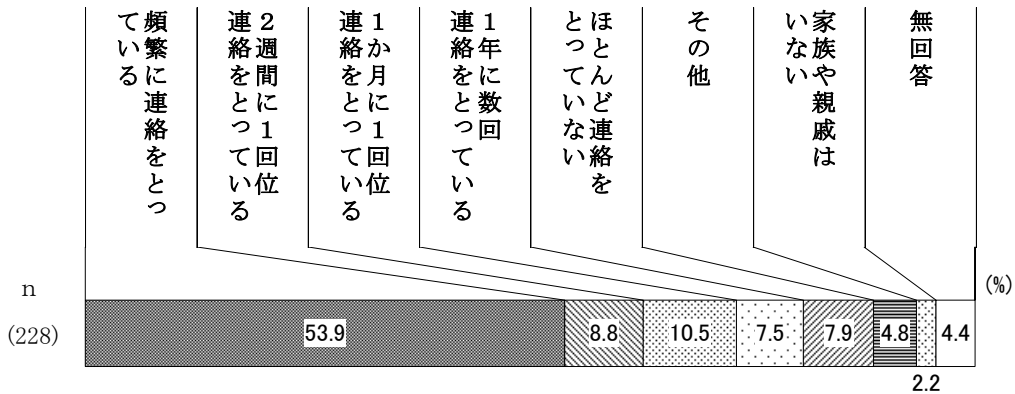


経年比較でみると、「一人暮らし」は、前回調査と大きな差は見られない。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「1 一人暮らし」と回答した方のみお答えください》
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。(1つに○)

<図表 94> 家族や親戚との連絡

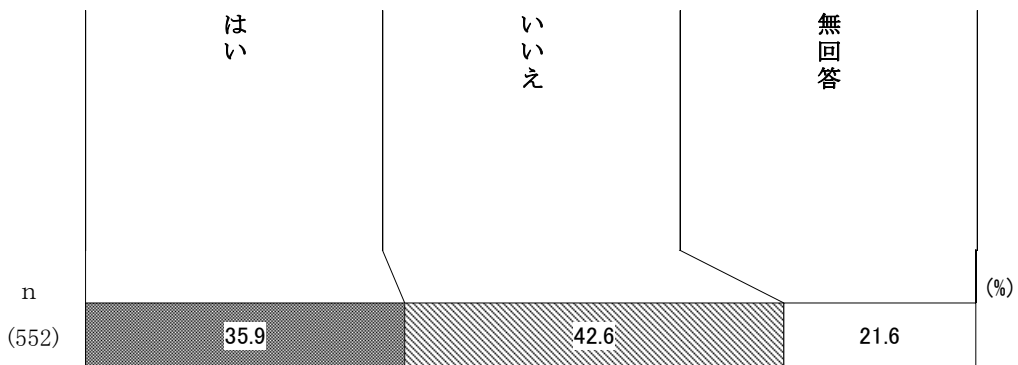


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(53.9%)が5割台半ば近くで最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4で「2」～「7」と回答した方のみお答えください》
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表 95> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

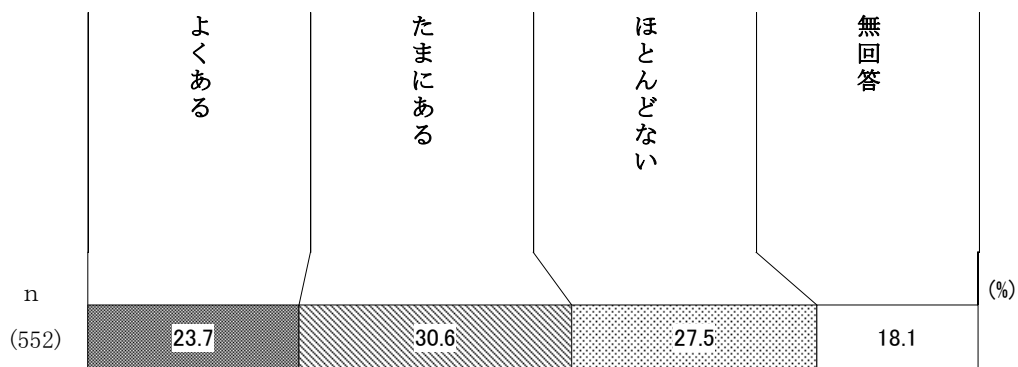


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(35.9%)は3割台半ば、「いいえ」(42.6%)は4割強となっている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4で「2」～「7」と回答した方のみお答えください》
 日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表 96> 日中の独居状況

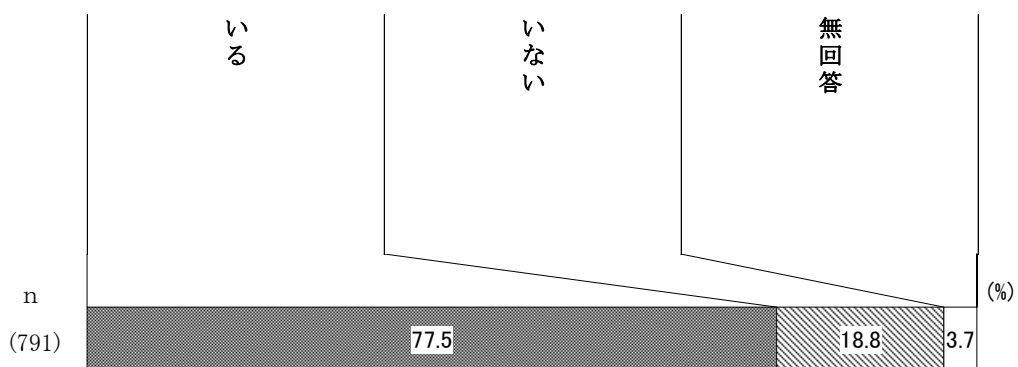


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」(30.6%)が約3割で最も高く、次いで、「ほとんどない」(27.5%)が2割台半ばを超え、「よくある」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあった時、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表 97> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

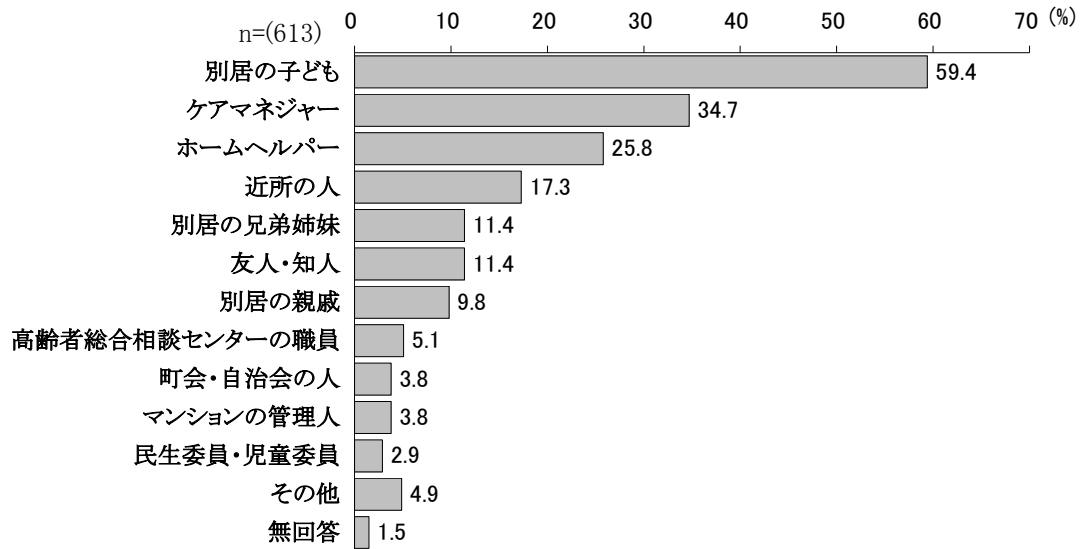


同居者以外に日常生活で困った時に手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(77.5%)は7割台半ばを超え、「いない」(18.8%)は2割近くとなっている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 《問5で「1 いる」と回答した方のみお答えください》
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 98> 手助けを頼める人

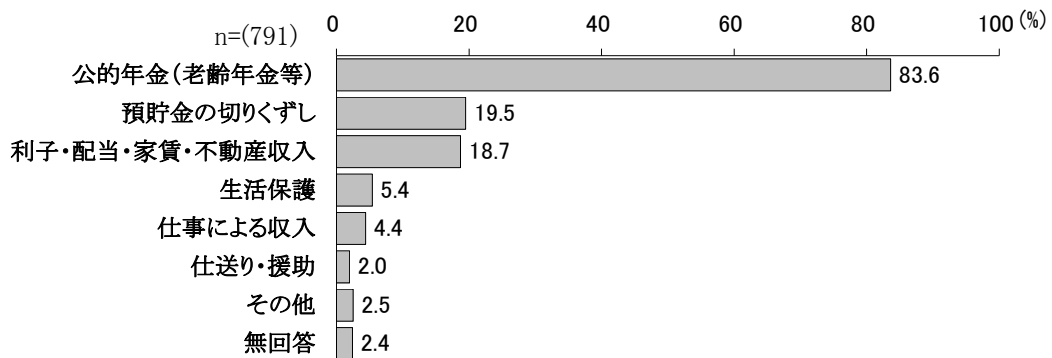


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先をたずねたところ、「別居の子ども」(59.4%)が6割弱と高くなっている。次いで、「ケアマネジャー」(34.7%)が3割台半ば近く、「ホームヘルパー」(25.8%)が2割台半ばとなっている。

⑫自身の収入

問6 あなたご本人の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 99> 自身の収入

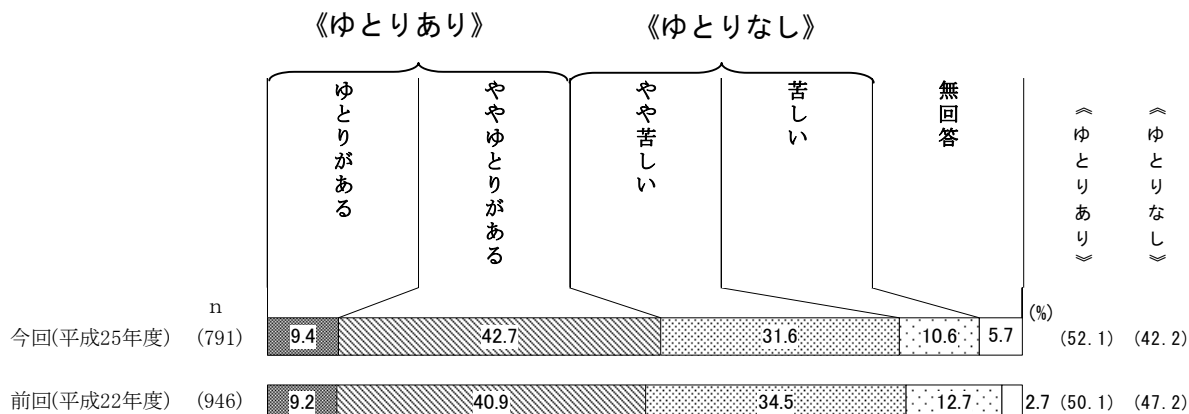


自身の収入についてたずねたところ、「公的年金(老齢年金等)」(83.6%)が8割台半ば近くと最も高くなっている。次いで、「預貯金の切りくずし」(19.5%)が2割弱、「利子・配当・家賃・不動産収入」(18.7%)が2割近くとなっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、あなたの現在の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表 100> 現在の暮らし向き(経年比較)



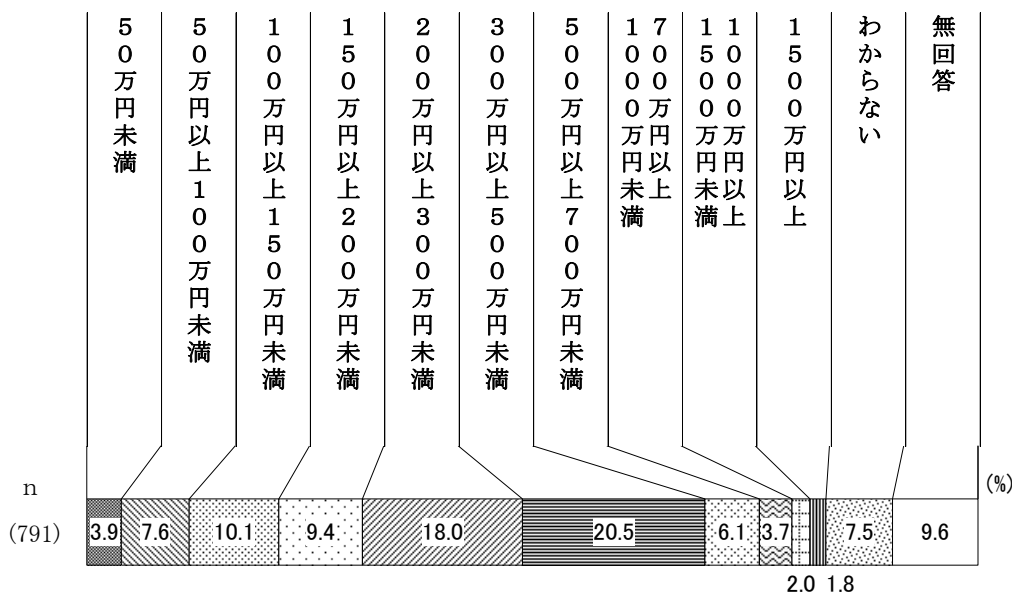
現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(9.4%)と「ややゆとりがある」(42.7%)をあわせた《ゆとりあり》(52.1%)が5割強となっている。

経年比較でみると、《ゆとりあり》は、前回調査と大きな差は見られない。

⑭昨年1年間の自身と家族の年間収入総額

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか。(1つに○)

<図表 101> 昨年1年間の自身と家族の年間収入総額



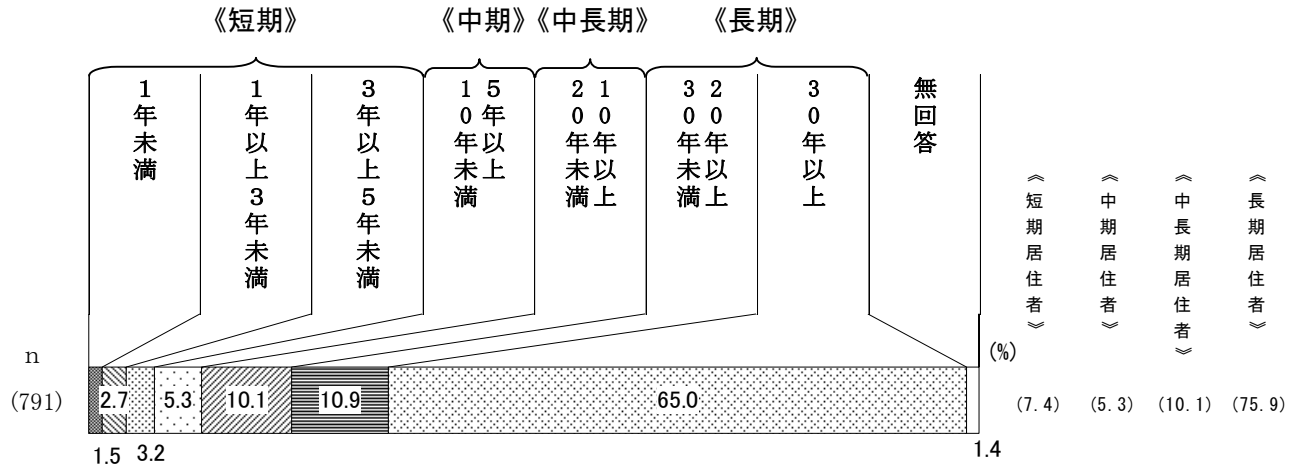
昨年1年間の自身と家族の年間収入総額についてたずねたところ、「3000万円以上5000万円未満」(20.5%)が約2割で最も高く、次いで、「2000万円以上3000万円未満」(18.0%)が2割近くとなっている。

(2) お住まいについて

① 居住年数

問9 あなたは、現在のお住まいに何年住んでいますか。(1つに○)

<図表 102> 居住年数

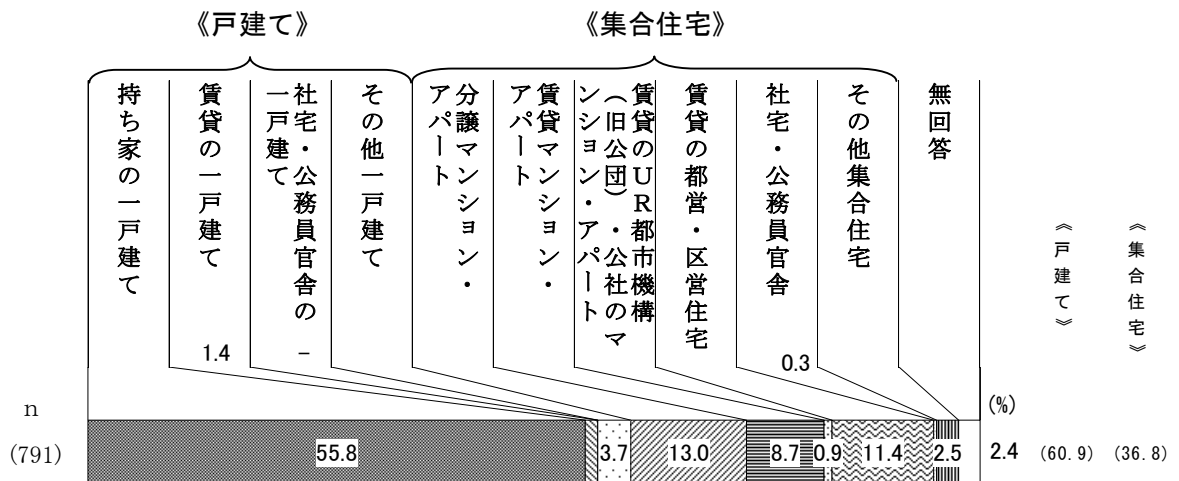


居住年数についてたずねたところ、「20年以上30年未満」(10.9%)と「30年以上」(65.0%)をあわせた《長期居住者》(75.9%)は7割台半ばと高くなっている。

② 住まいの形態

問10 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 103> 住まいの形態

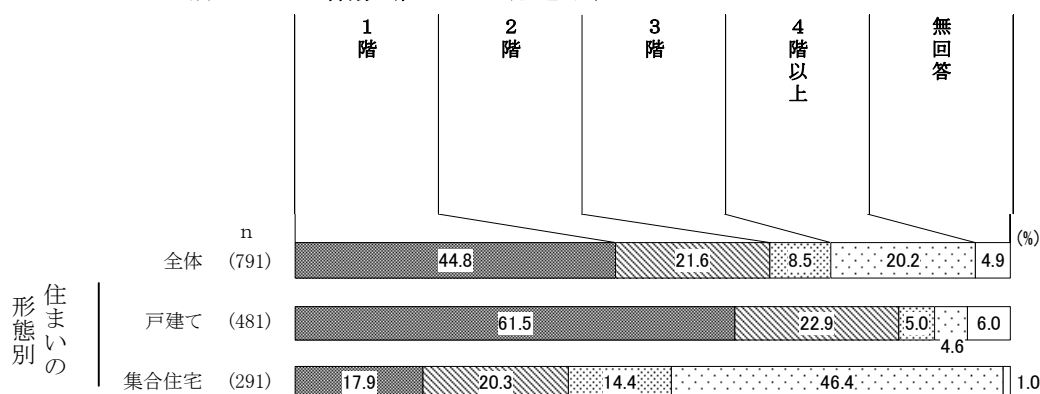


住まいの形態についてたずねたところ、「持ち家の一戸建て」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「分譲マンション・アパート」(13.0%)が1割台半ば近くとなっている。

③主に生活している階数とエレベーターの設置状況

問11 ①あなたが主に生活しているのは何階ですか。

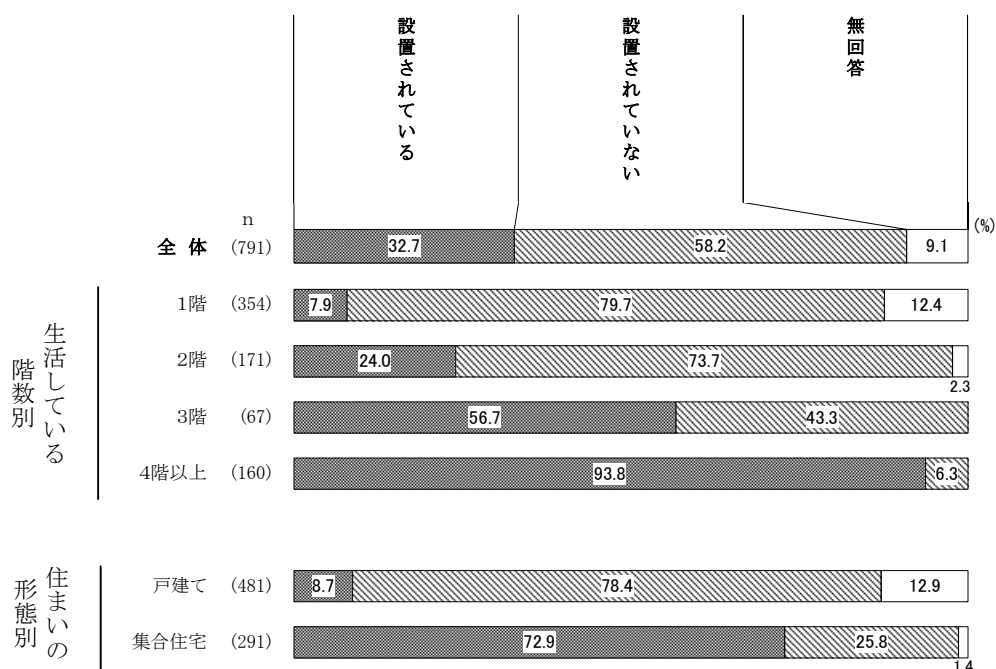
<図表 104> 主に生活している階数(住まいの形態別)



主に生活している階数をたずねたところ、《戸建て》では、「1階」(61.5%)が6割強で最も高く、次いで、「2階」(22.9%)、「3階」(5.0%)となっている。《集合住宅》では、「4階以上」(46.4%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「2階」(20.3%)、「1階」(17.9%)となっている。

②エレベーターは設置されていますか。(1つに○)

<図表 105> エレベーターの設置状況(生活している階数別/住まいの形態別)



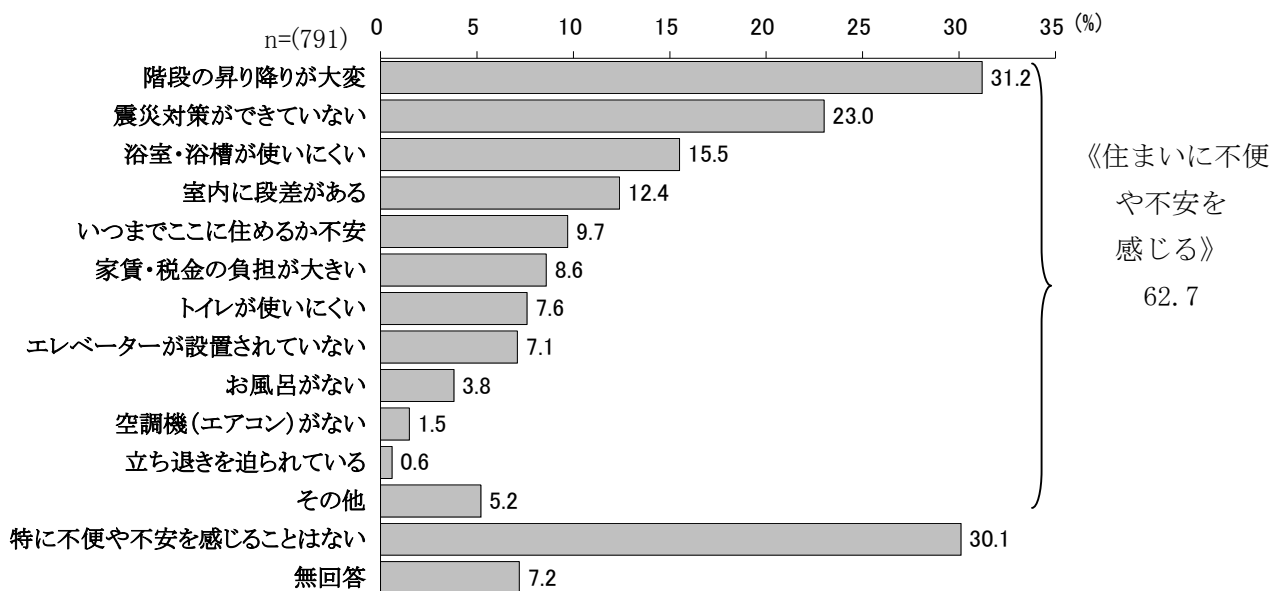
エレベーターの設置についてたずねたところ、《集合住宅》では「設置されている」(72.9%)が7割強、「設置されていない」(25.8%)が2割台半ばとなっている。

また、生活している階数別でみると、「設置されている」は、4階以上(93.8%)で9割台半ば近くと、高くなっている。

④現在の住まいにおける不便・不安

問12 あなたが、現在のお住まいで、不便や不安を感じていることは、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表 106> 現在の住まいにおける不便・不安



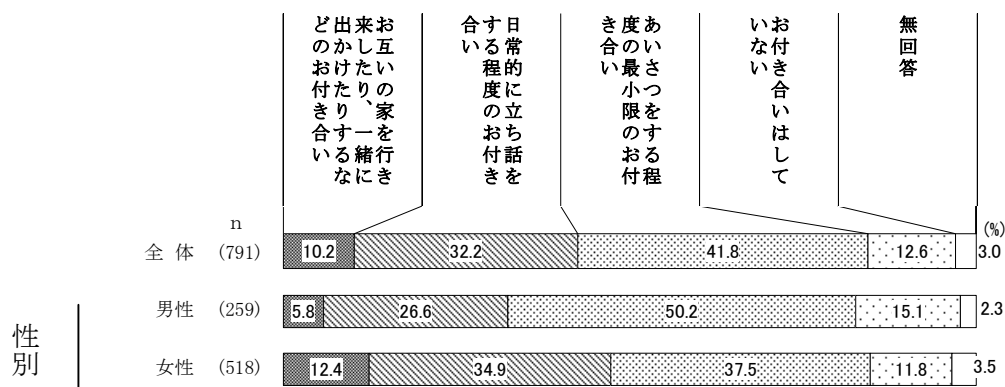
現在の住まいで、不便や不安を感じていることをたずねたところ、《住まいに不便や不安を感じる》(62.7%)が6割強となっている。不便や不安を感じる内容としては、「階段の昇り降りが大変」(31.2%)が3割強で最も高く、次いで、「震災対策ができていない」(23.0%)、「浴室・浴槽が使いにくい」(15.5%)となっている。

(3) 日ごろの生活について

① ご近所付き合い

問13 あなたは、ご近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表 107> ご近所付き合い (性別)



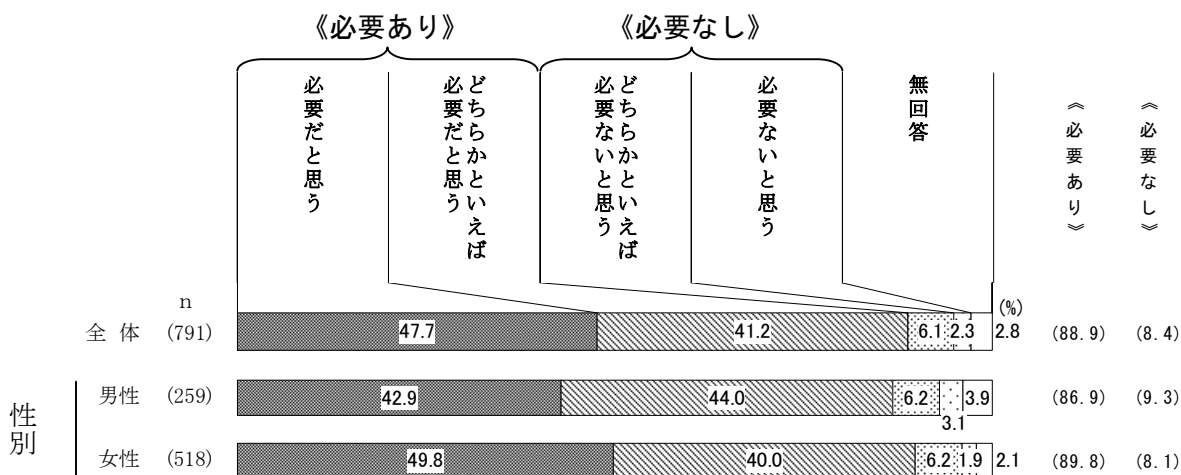
近所の方とお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(41.8%)が4割強と最も高く、次いで、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(32.2%)が3割強となっている。

性別でみると、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」は、女性のほうが8.3ポイント高くなっている。一方、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」は、男性のほうが12.7ポイント高くなっている。

② 地域のつながりの必要性

問14 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。(1つに○)

<図表 108> 地域のつながりの必要性 (性別)



地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(47.7%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで、「どちらかといえば必要だと思う」(41.2%)が4割強となっている。

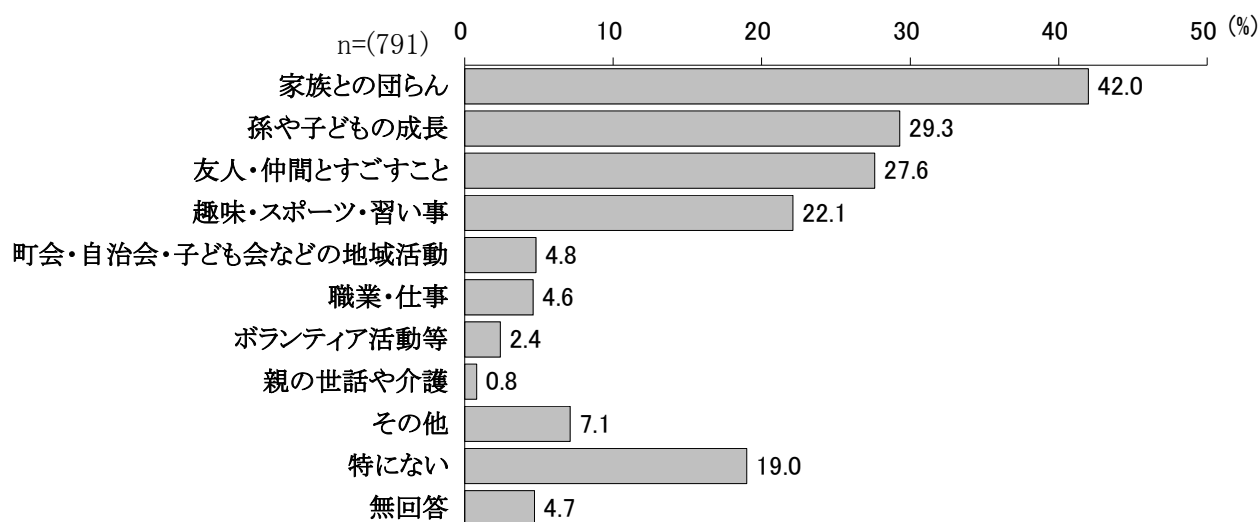
性別でみると、「必要だと思う」は、女性のほうが6.9ポイント高くなっている。

(4) いきがいづくりや社会参加について

① いきがいを感じることに

問15 あなたにとって、いきがいを感じるのは、どのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表 109> いきがいを感じることに



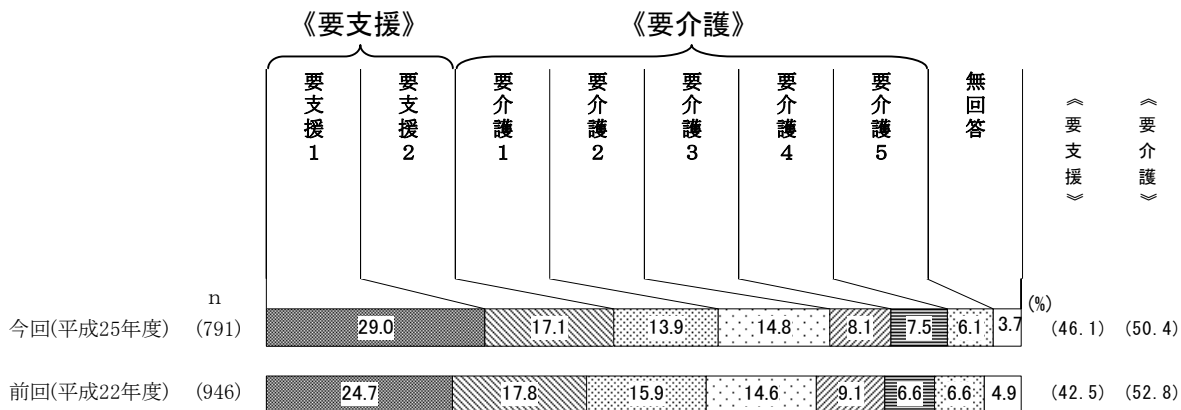
いきがいを感じることをたずねたところ、「家族との団らん」(42.0%)が4割強と最も高くなっている。次いで、「孫や子どもの成長」(29.3%)が3割弱、「友人・仲間とすごすこと」(27.6%)が2割台半ばを超える。

(5) 要介護認定について

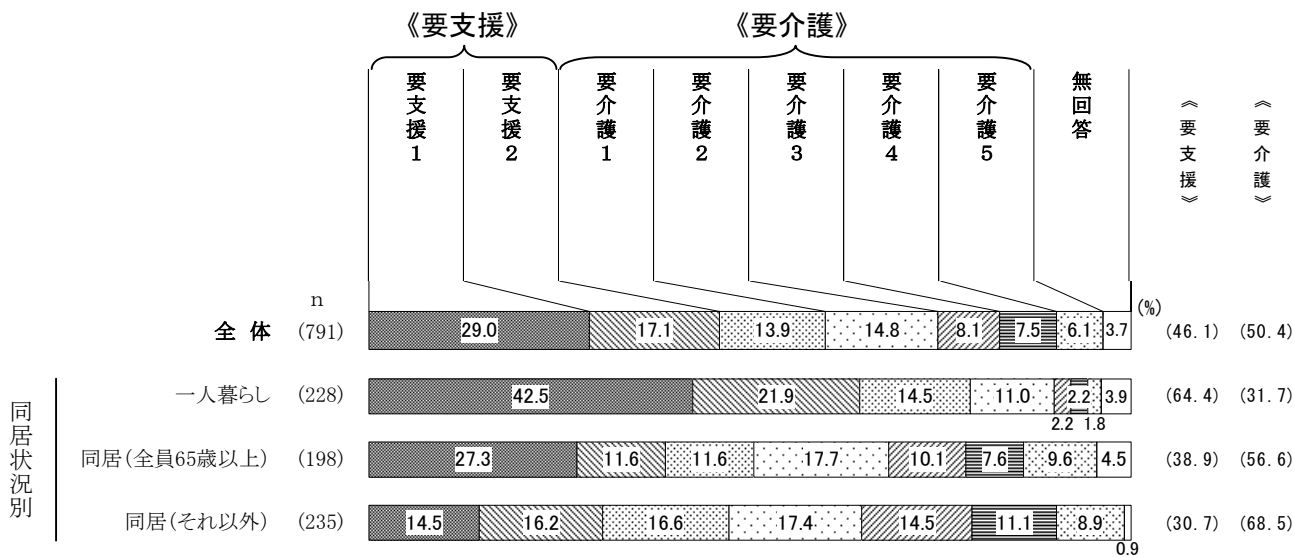
① 要介護度

問16 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 110> 現在の要介護度（経年比較）



<図表 111> 現在の要介護度（同居状況別）



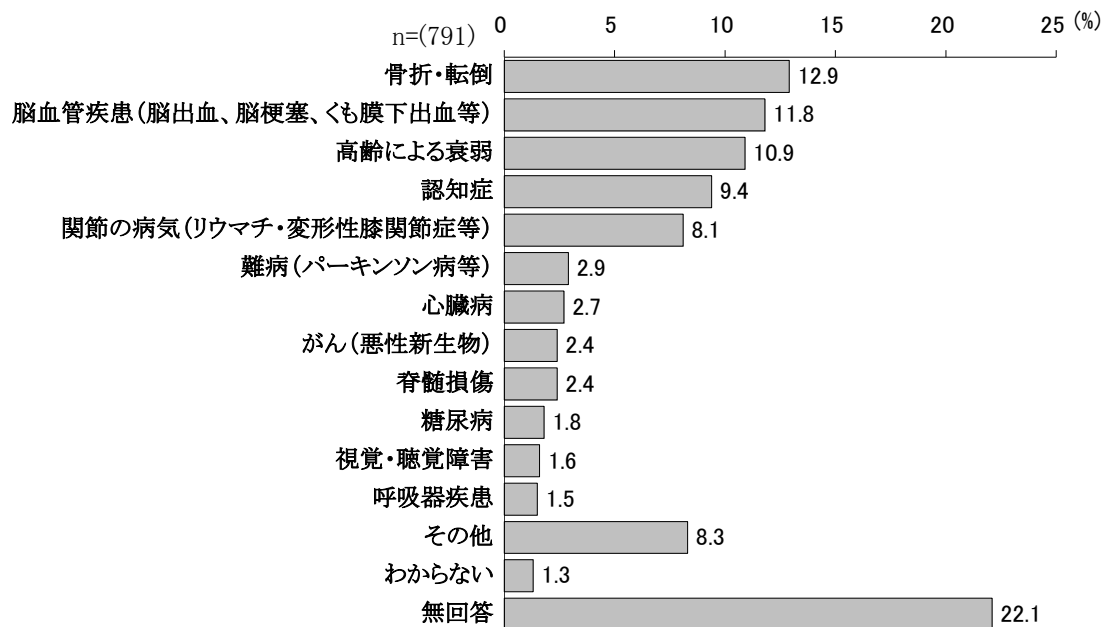
要介護度をたずねたところ、「要支援1」と「要支援2」をあわせた《要支援》(46.1%)は4割台半ばを超える。

同居状況別でみると、一人暮らしの場合、《要支援》(64.4%)が6割台半ば近くと高くなっている。

②介護が必要となった主な原因

問17 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 112> 介護が必要となった主な原因



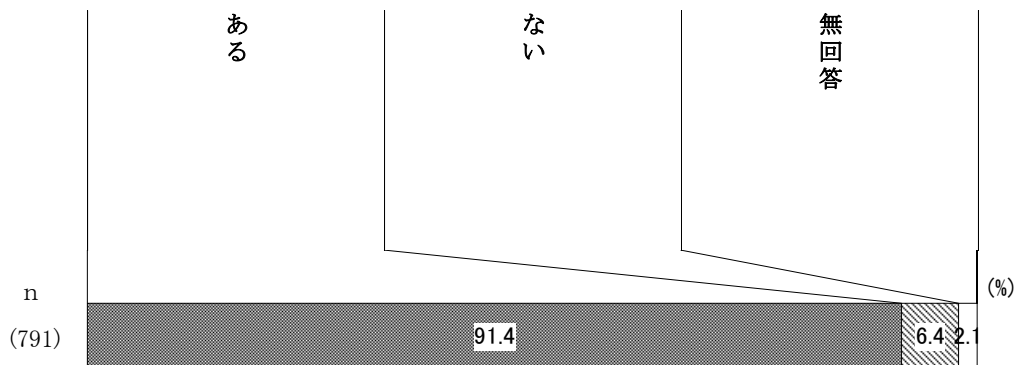
介護を必要とするようになった主な原因をたずねたところ、「骨折・転倒」(12.9%)「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」(11.8%)、「高齢による衰弱」(10.9%)が1割以上となっている。

(6) 医療機関等の受診等について

①治療中の病気の有無

問18 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表 113> 治療中の病気の有無

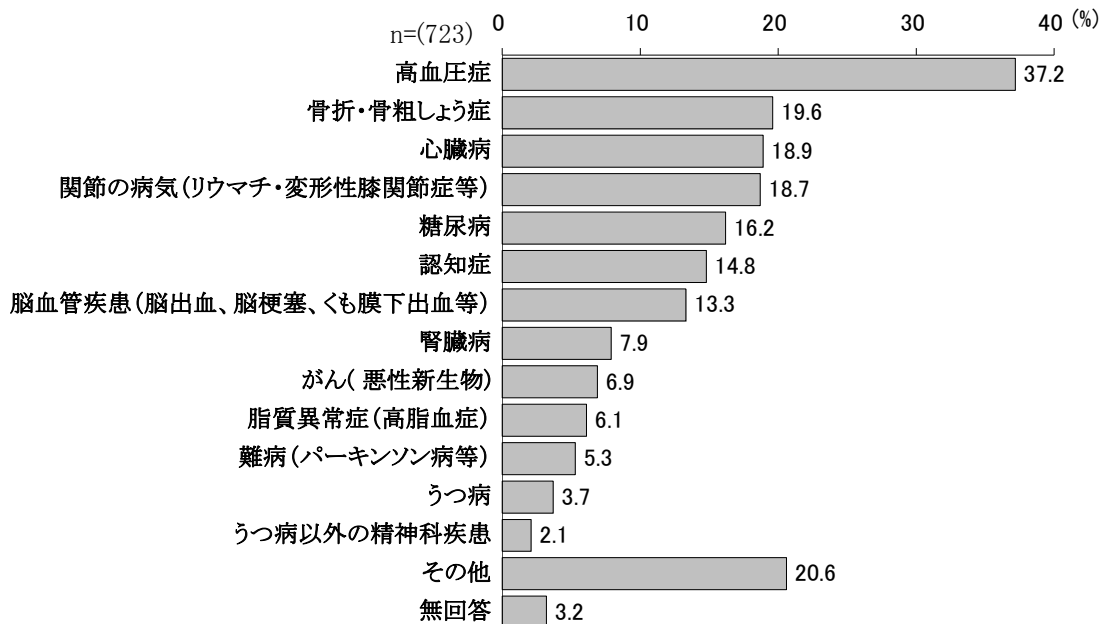


現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(91.4%)は9割強となっている。

②治療中の病気の種類

問18-1 <<問18で「1 ある」と回答した方のみお答えください>>
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 114> 治療中の病気の種類

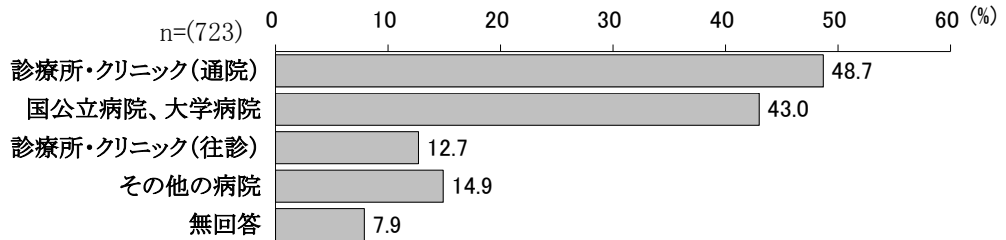


問18で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(37.2%)が3割台半ばを超え最も高くなっている。「その他」としては、眼の病気、腎臓・尿器、循環器の病気、腰痛といった内容が多くあげられた。

③受診している医療機関

問18-2 《問18で「1 ある」と回答した方のみお答えください》
 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 115> 受診している医療機関

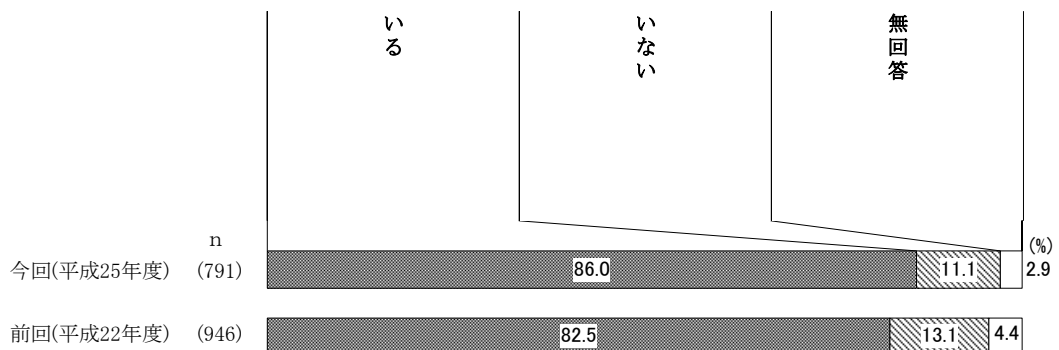


問18で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(48.7%)が5割近くで最も高く、次いで、「国公立病院、大学病院」(43.0%)が4割台半ば近くとなっている。

④かかりつけ医の有無

問19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所の「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表 116> かかりつけ医の有無(経年比較)



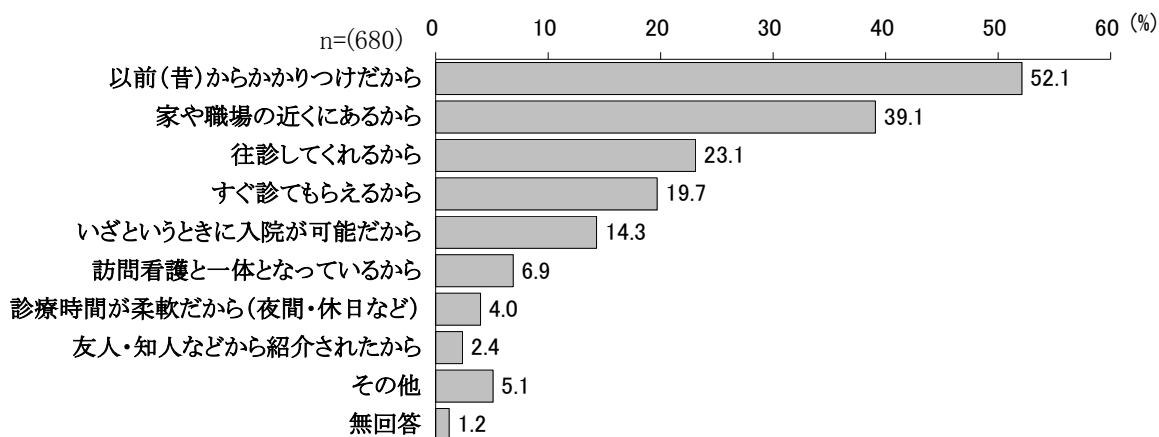
かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(86.0%)は8割台半ばを超え、「いない」(11.1%)は1割強となっている。

経年比較でみると、「いる」は、前回調査と大きな差は見られない。

⑤かかりつけ医を選んだ理由

問19-1 《問19で「1 いる」と回答した方のみお答えください》
 その診療所の「かかりつけ医」を選んだ理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表 117> かかりつけ医を選んだ理由

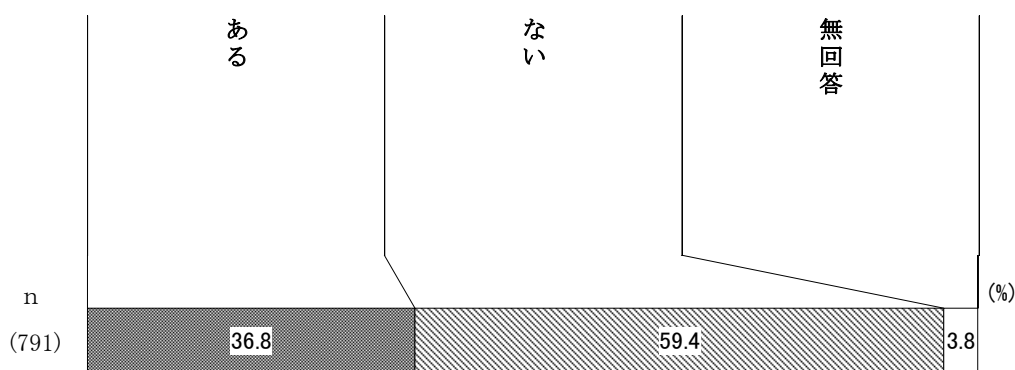


問19でかかりつけ医が「いる」と回答した人にかかりつけ医を選んだ理由をたずねたところ、「以前(昔)からかかりつけだから」(52.1%)が5割強と最も高くなっている。次いで、「家や職場の近くにあるから」(39.1%)が4割弱、「往診してくれるから」(23.1%)が2割台半ば近くとなっている。

⑥過去1年間の入院経験

問20 あなたは、過去1年以内に入院した経験がありますか。(1つに○)

<図表 118> 過去1年間の入院経験

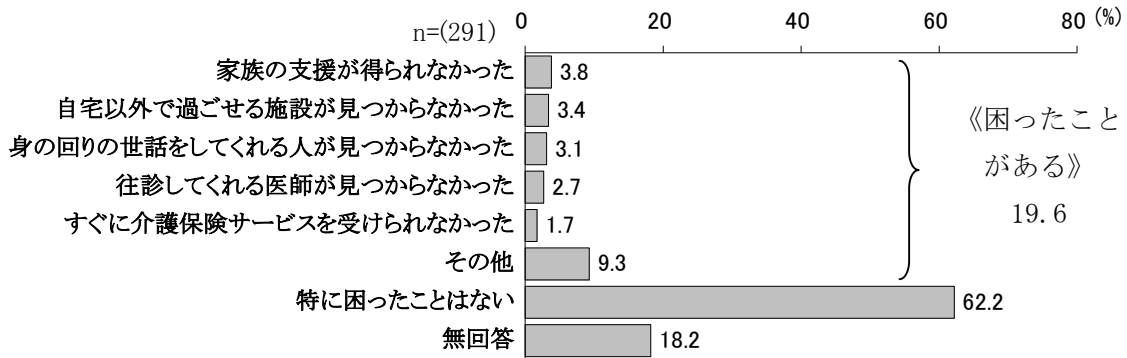


過去1年間に入院した経験の有無をたずねたところ、「ある」(36.8%)は3割台半ばを超え、「ない」(59.4%)は6割弱となっている。

⑦退院にあたって困ったこと

問20-1 《問20で「1 ある」と回答した方のみお答えください》
 退院にあたって困ったことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 119> 退院にあたって困ったこと

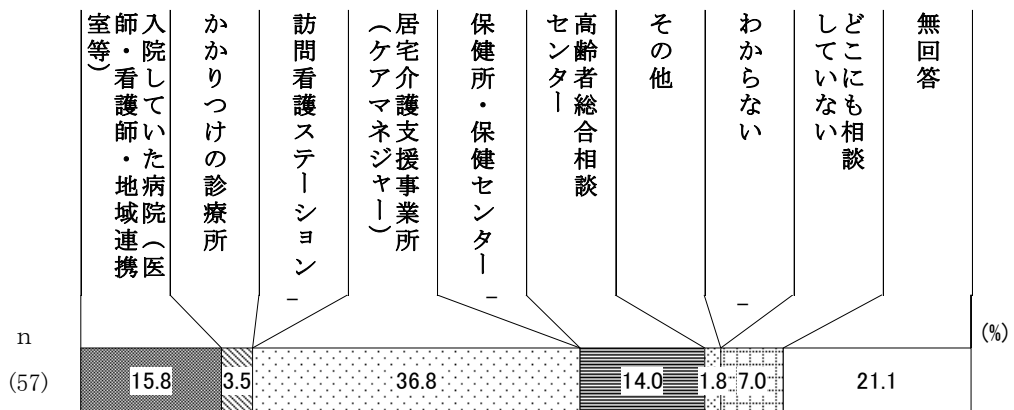


問20で過去1年間に入院した経験が「ある」と回答した人に、退院にあたって困ったことをたずねたところ、《困ったことがある》(19.6%)が2割弱となっている。具体的な内容としては、「家族の支援が得られなかった」(3.8%)、「自宅以外で過ごせる施設が見つからなかった」(3.4%)、「身の回りの世話をしてくれる人が見つからなかった」(3.1%)となっている。

⑧退院時の最初の相談先

問20-1-1 《問20-1で「1」～「6」と回答した方のみお答えください》
 退院にあたって、自宅で治療や介護を受けるのに困った時、最初にどこに相談しましたか。(1つに○)

<図表 120> 退院時の最初の相談先



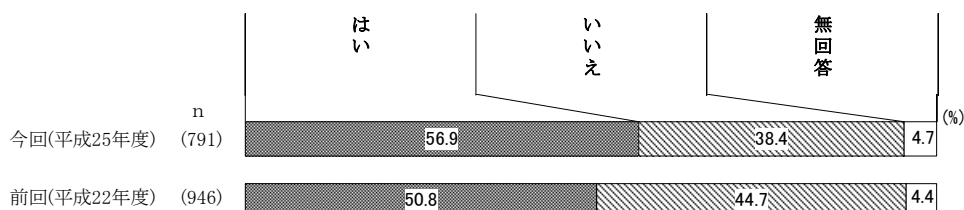
問20-1で退院時に《困ったことがあった》と回答した人に、最初に相談したところをたずねたところ、「居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)」(36.8%)が3割台半ばを超え最も高く、次いで、「入院していた病院(医師・看護師・地域連携室等)」(15.8%)が1割台半ばとなっている。

⑨ 歯科について

問21 歯科についておたずねします。アからオまですべての質問にお答えください。(それぞれ1つに〇)

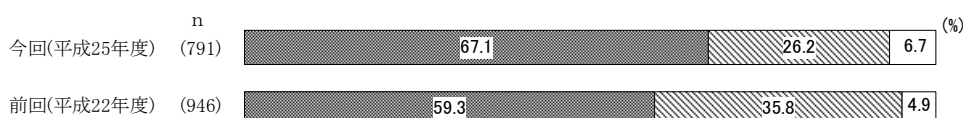
<図表 121> 歯科について(一部、経年比較)

ア あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか



1年以内の歯科受診の有無をたずねたところ、「はい」(56.9%)は5割台半ばを超える。経年比較でみると、「はい」は、前回調査に比べ、6.1ポイント高くなっている。

イ あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか



かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「はい」(67.1%)は6割台半ばを超える。経年比較でみると、「はい」は、前回調査に比べ、7.8ポイント高くなっている。

ウ あなたは、硬い物が食べにくいですか



硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(58.7%)は6割近くとなっている。

エ あなたは、食事中にむせることがありますか



食事中にむせることの有無をたずねたところ、「はい」(39.2%)は4割弱となっている。

オ あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存知ですか



往診してくれる歯科医の認知度をたずねたところ、「はい」(36.9%)は3割台半ばを超える。

⑩この2週間の心の状況

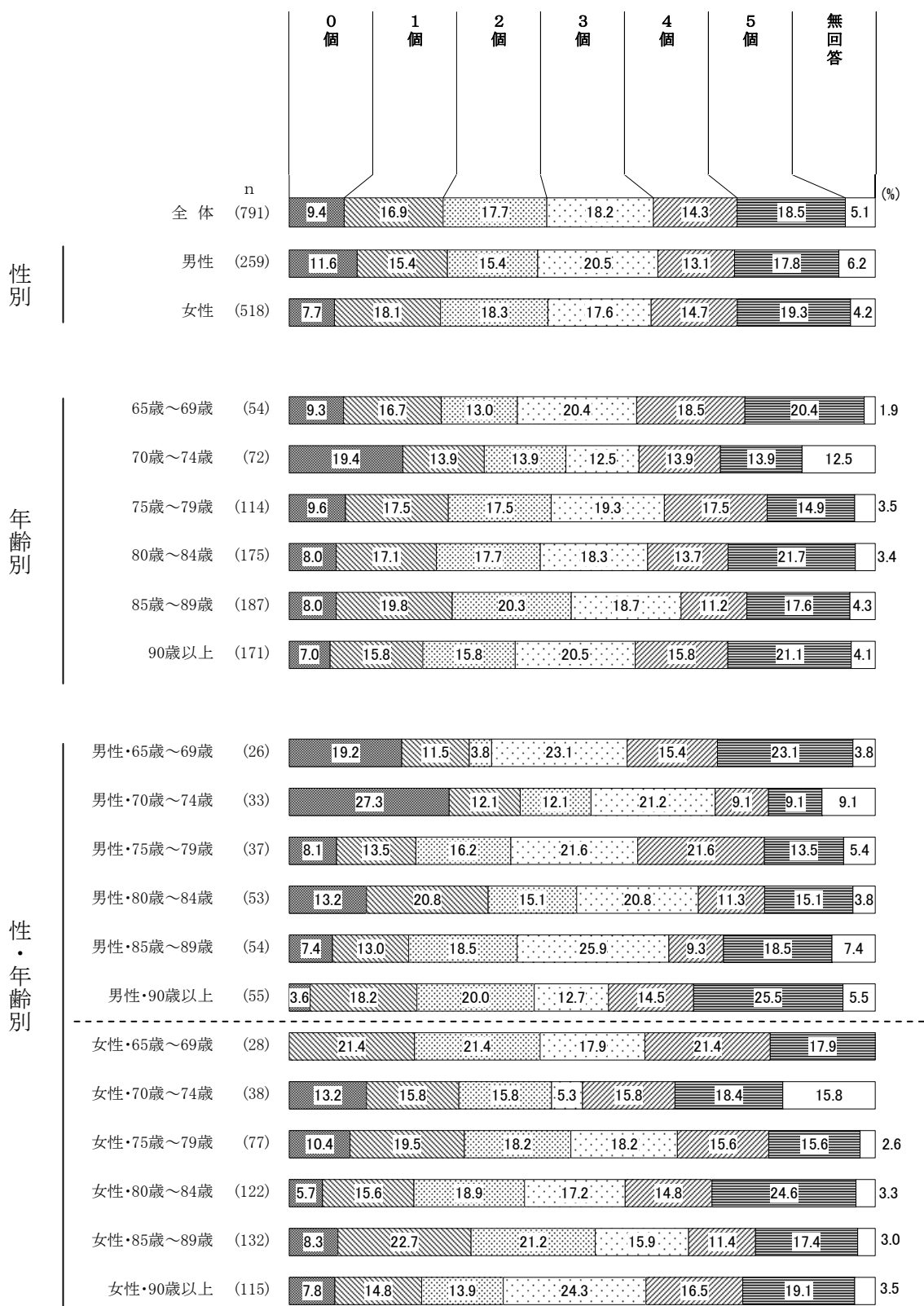
問22 この2週間のあなたの心の状況について、あてはまるほうをお選びください。(それぞれ1つに○)

<こころの健康状況(5項目)>

- ア. 毎日の生活に充実感がない
- イ. これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった
- ウ. 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる
- エ. 自分は役に立つ人間だと思えない
- オ. わけもなく疲れたような感じがする

こころの健康状況をたずねたところ、すべてに該当しない(0個)は1割弱となっている。性別でみると、すべてに該当しない(0個)は、男性のほうが3.9ポイント高くなっている。年齢でみると、すべてに該当しない(0個)は、年齢が上がるほど、減少する傾向にある。性・年齢別でみると、すべてに該当しない(0個)は、男性の70歳~74歳で2割台半ばを超える。

<図表 122> 心の健康状況(性別/年齢別/性・年齢別)

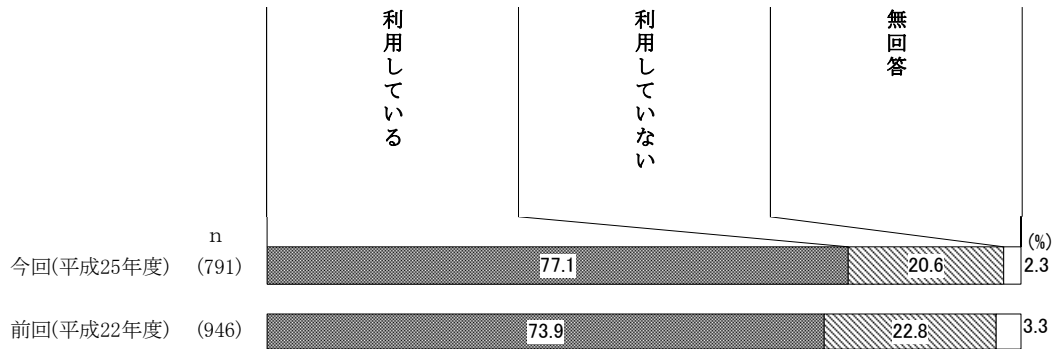


(7) 介護保険サービスの利用状況と利用意向について

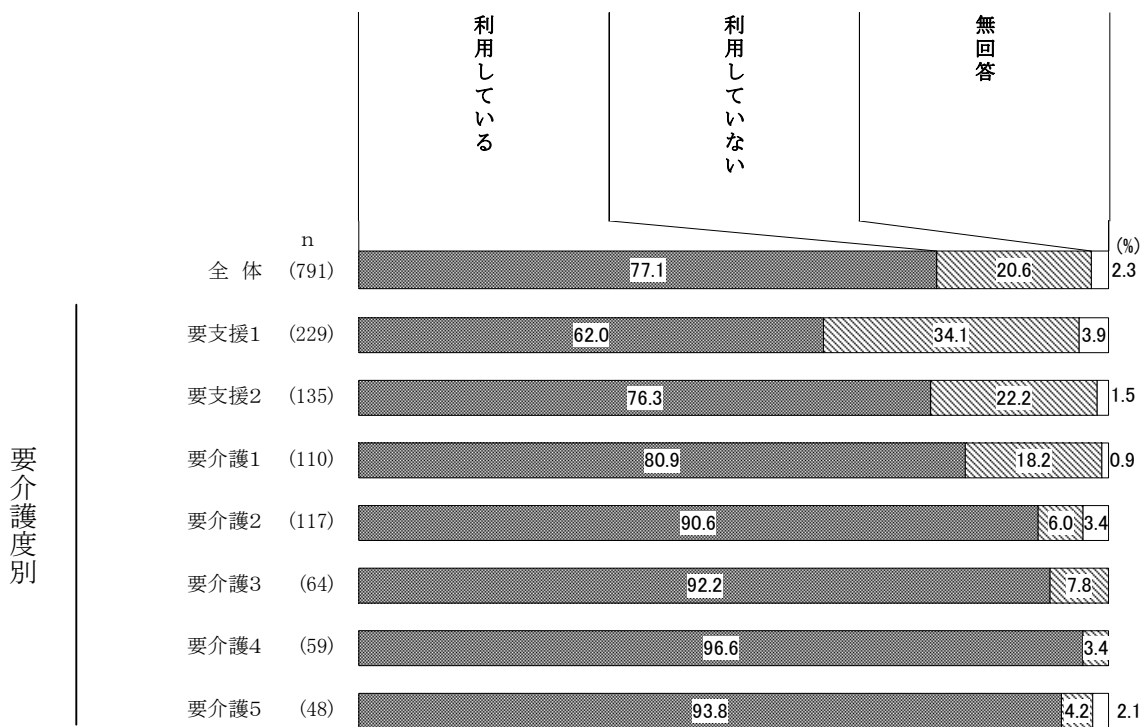
①介護保険サービスの利用状況

問23 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

<図表 123> 介護保険サービスの利用状況 (経年比較)



<図表 124> 介護保険サービスの利用状況 (要介護度別)



介護保険サービスの利用状況をたずねたところ、「利用している」(77.1%)は7割台半ばを超え、「利用していない」(20.6%)は約2割となっている。

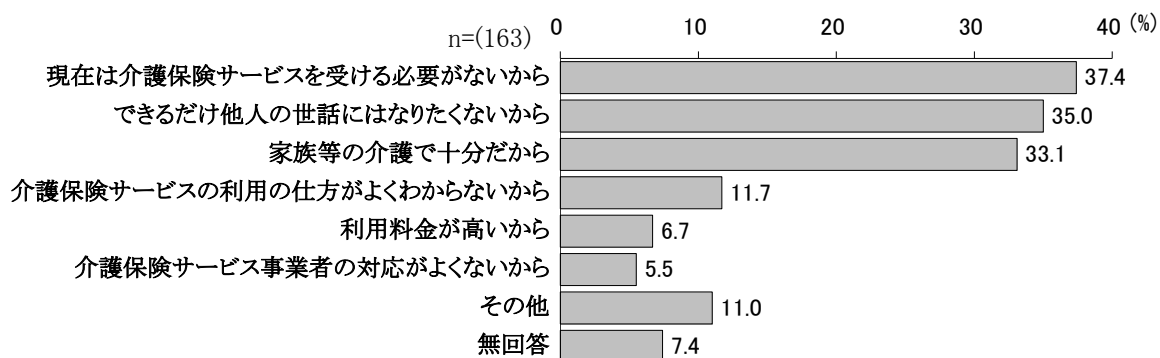
経年比較でみると、「利用している」は、前回調査と大きな差は見られない。

要介護度別でみると、「利用している」は、段階があがるほど、増加する傾向にある。

②介護保険サービスを利用していない理由

問23-1 《問23で「2 利用していない」と回答した方のみお答えください》
 介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 125> 介護保険サービスを利用していない理由



問23で介護保険サービスを「利用していない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「現在は介護保険サービスを受ける必要がないから」(37.4%)が3割台半ばを超え最も高くなっている。次いで、「できるだけ他人の世話にはなりたくないから」(35.0%)が3割台半ば、「家族等の介護で十分だから」(33.1%)が3割台半ば近くとなっている。

<図表 126> 介護保険サービスを利用していない理由 (要介護度別)

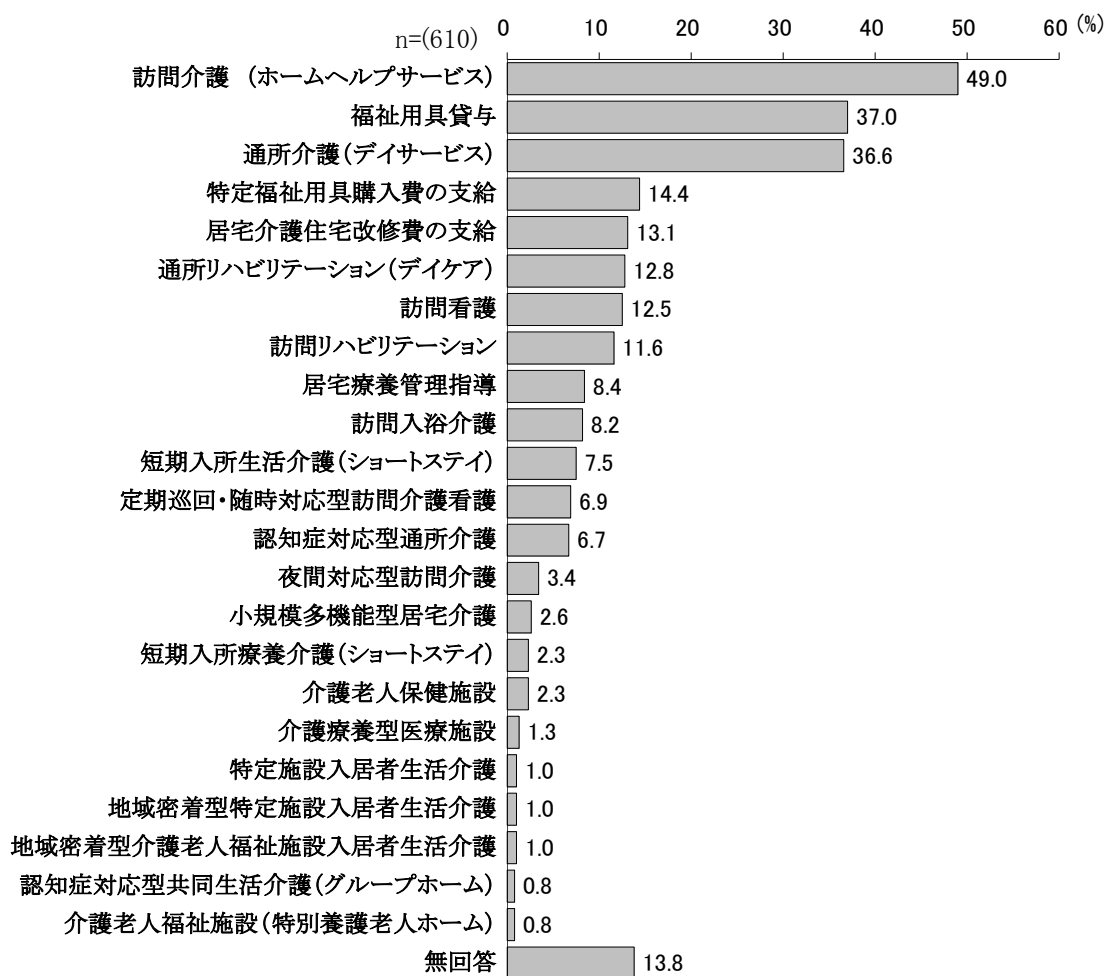
(%)

	調査数	現在必要ないから	他人の世話にほしくないから	家族等の介護で十分だから	介護サービスの利用の仕方がよくわからないから	利用料金が高いから	事業者の対応がよくないから	その他	無回答
		現在介護保険サービスを受ける必要がないから	できるだけ他人の世話にはなりたくないから	家族等の介護で十分だから	介護保険サービスの利用の仕方がよくわからないから	利用料金が高いから	介護保険サービス事業者の対応がよくないから	その他	無回答
全体	163	37.4	35.0	33.1	11.7	6.7	5.5	11.0	7.4
要支援1	78	42.3	38.5	30.8	7.7	3.8	3.8	11.5	6.4
要支援2	30	40.0	33.3	40.0	10.0	3.3	6.7	6.7	6.7
要介護1	20	20.0	30.0	30.0	15.0	15.0	5.0	25.0	0.0
要介護2	7	57.1	57.1	100.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護3	5	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
要介護4	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護5	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0

③利用している介護保険サービスと満足度

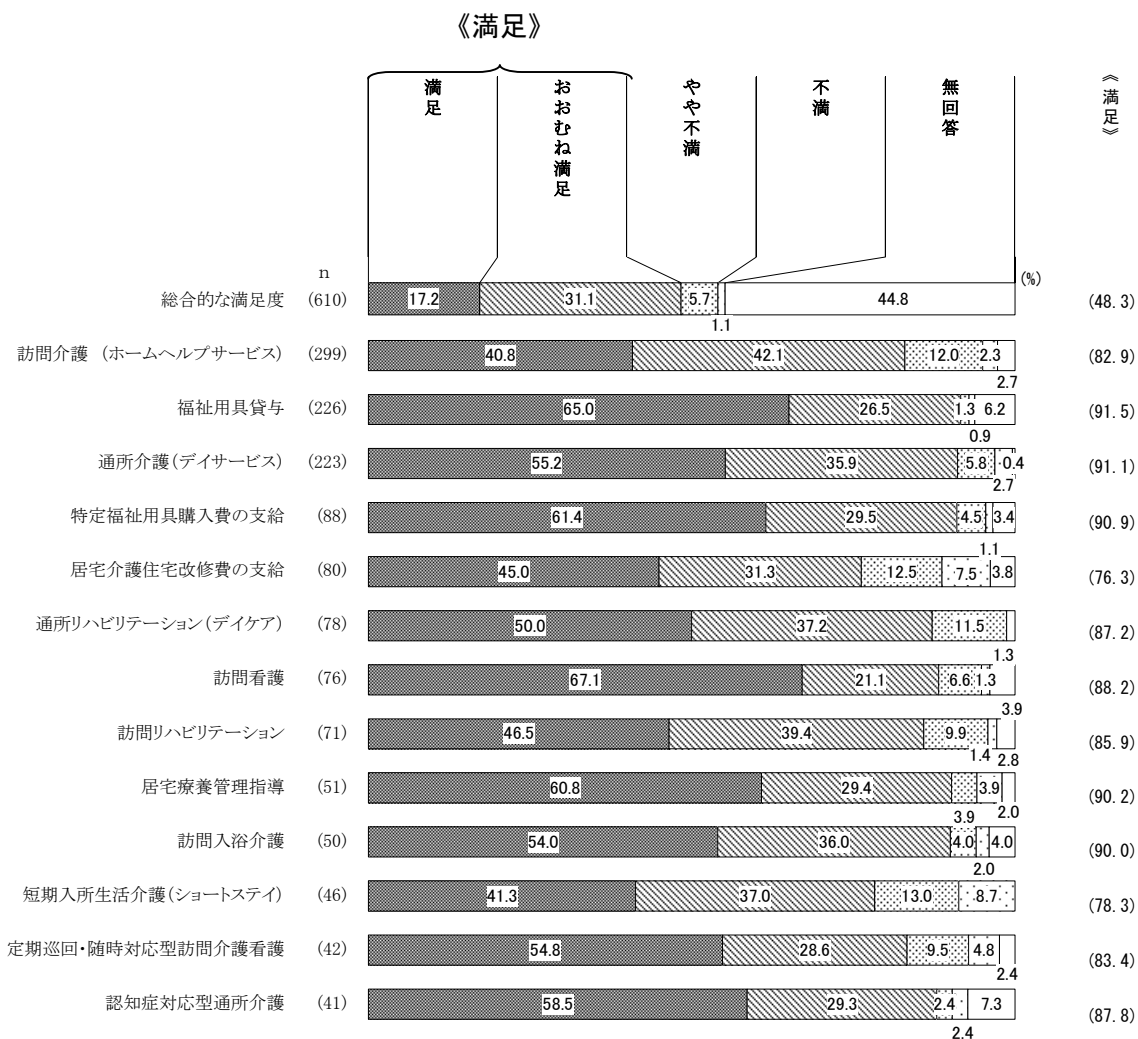
問23-2 現在ご利用の介護保険サービスと利用満足度についておたずねします。

<図表 127> 利用している介護保険サービス



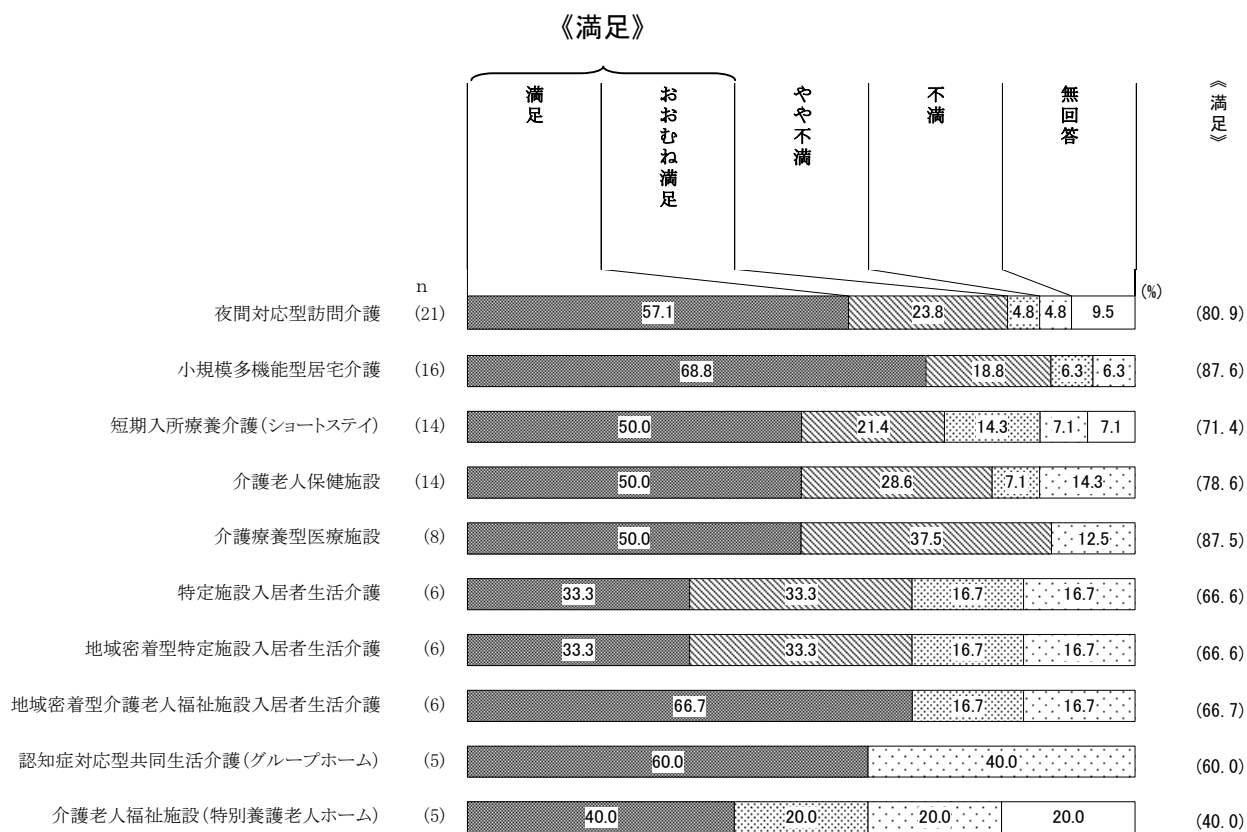
現在利用している介護保険サービスをたずねたところ、「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」(49.0%) が5割弱と最も高くなっている。次いで、「福祉用具貸与」(37.0%)、「通所介護 (デイサービス)」(36.6%) がそれぞれ3割台半ばを超える。

<図表 128> 介護保険サービスの満足度



現在利用しているサービスの満足度について聞いたところ、「満足」と「おおむね満足」をあわせた《満足》は、福祉用具貸与 (91.5%)、通所介護(デイサービス)(91.1%)、「特定福祉用具購入費の支給」(90.9%)、「居宅療養管理指導」(90.2%)、「訪問入浴介護」(90.0%) でともに9割台と高くなっている。

2-2 要支援・要介護認定者調査

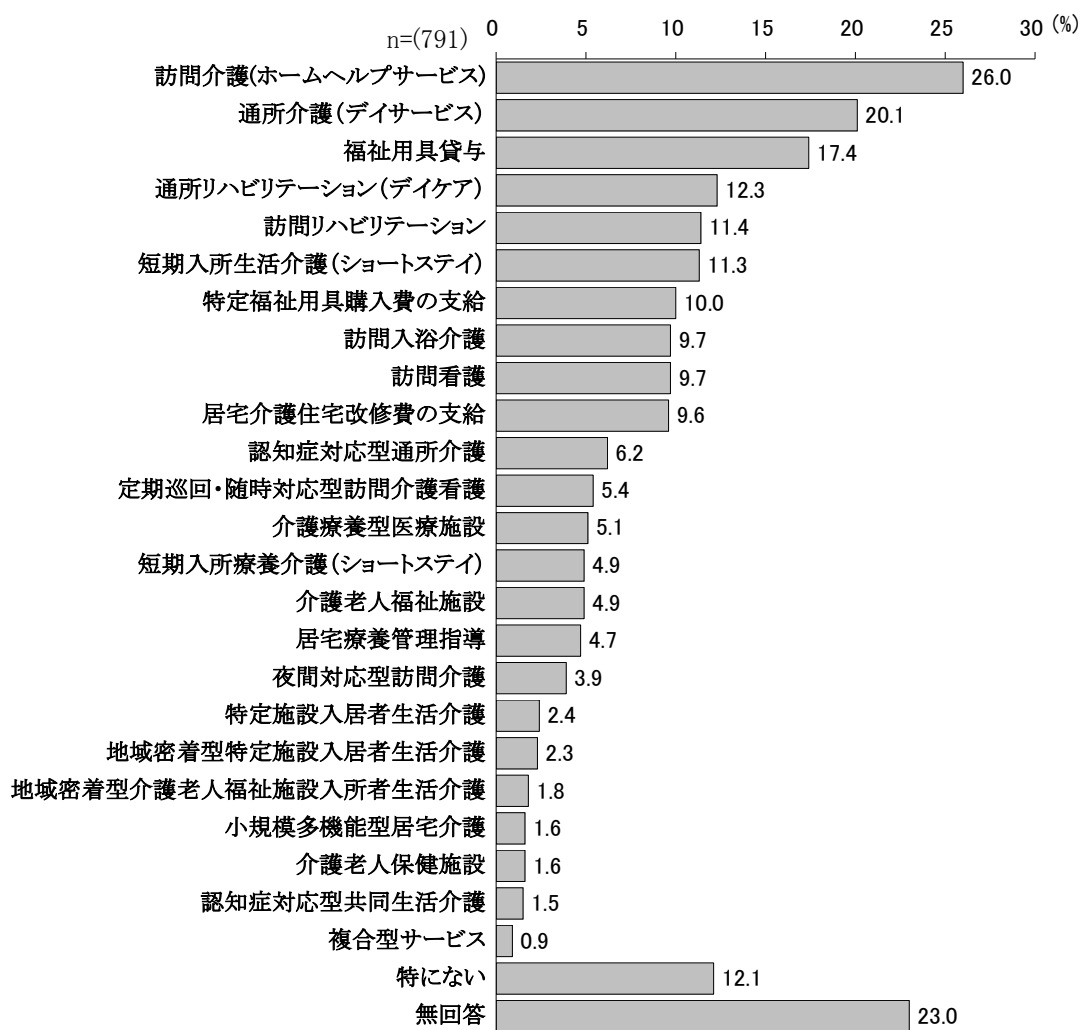


※基数が少ないため、参考として記載するにとどめる。

④今後利用してみたい介護保険サービス

問24 介護保険サービスで、あなたが今後新たに利用してみたい（または続けたい）ものは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表 129> 今後利用してみたい介護保険サービス

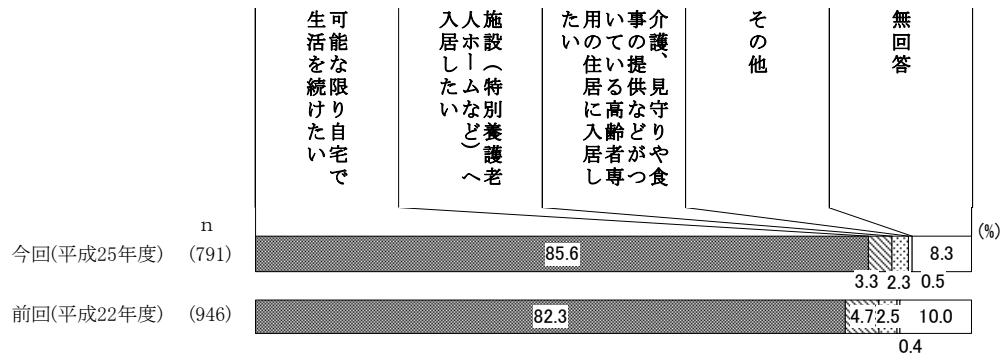


新たに利用したい（または続けたい）介護保険サービスをたずねたところ、「訪問介護」（26.0%）が2割台半ばを超え最も高く、次いで、「通所介護（デイサービス）」（20.1%）が約2割、「福祉用具貸与」（17.4%）が1割台半ばを超える。

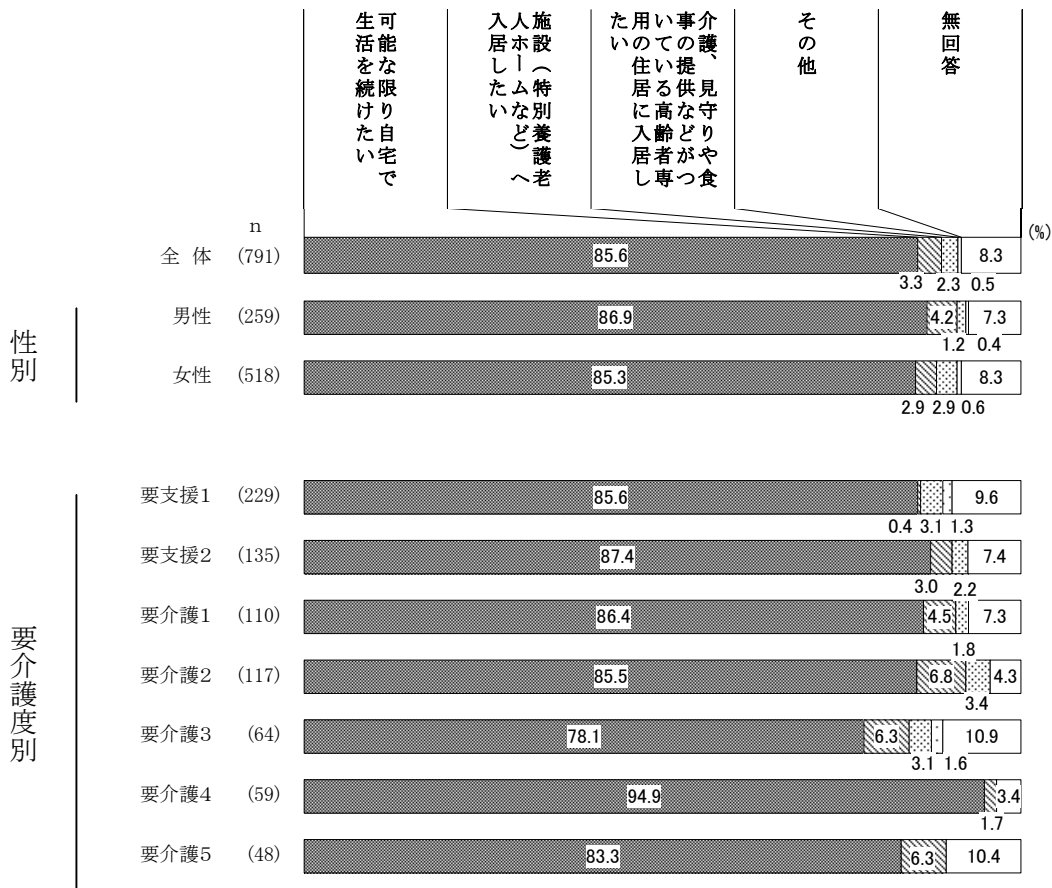
⑤今後の自宅等での生活意向

問25 あなたは、これからも今のお住まい（自宅等）で生活を続けたいと思いますか。
（1つに○）

<図表 130> 今後の自宅等での生活意向（経年比較）



<図表 131> 今後の自宅等での生活意向（性別/要介護度別）



今後の自宅等での生活意向をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」（85.6%）が突出している。

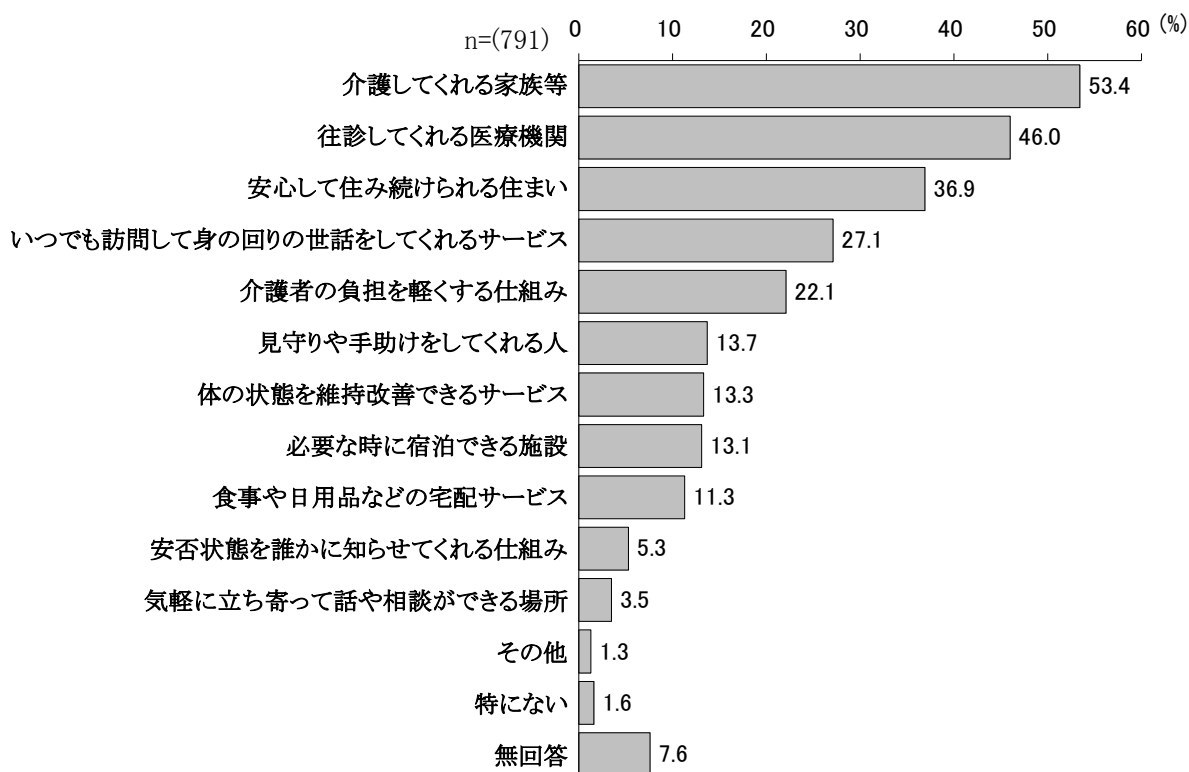
性別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、大きな差は見られない。

要介護度別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、要介護4（94.9%）で9割台半ば近くと高くなっている。

⑥在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問26 介護や医療が必要になっても、在宅で暮らし続けるために、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表 132> 在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの



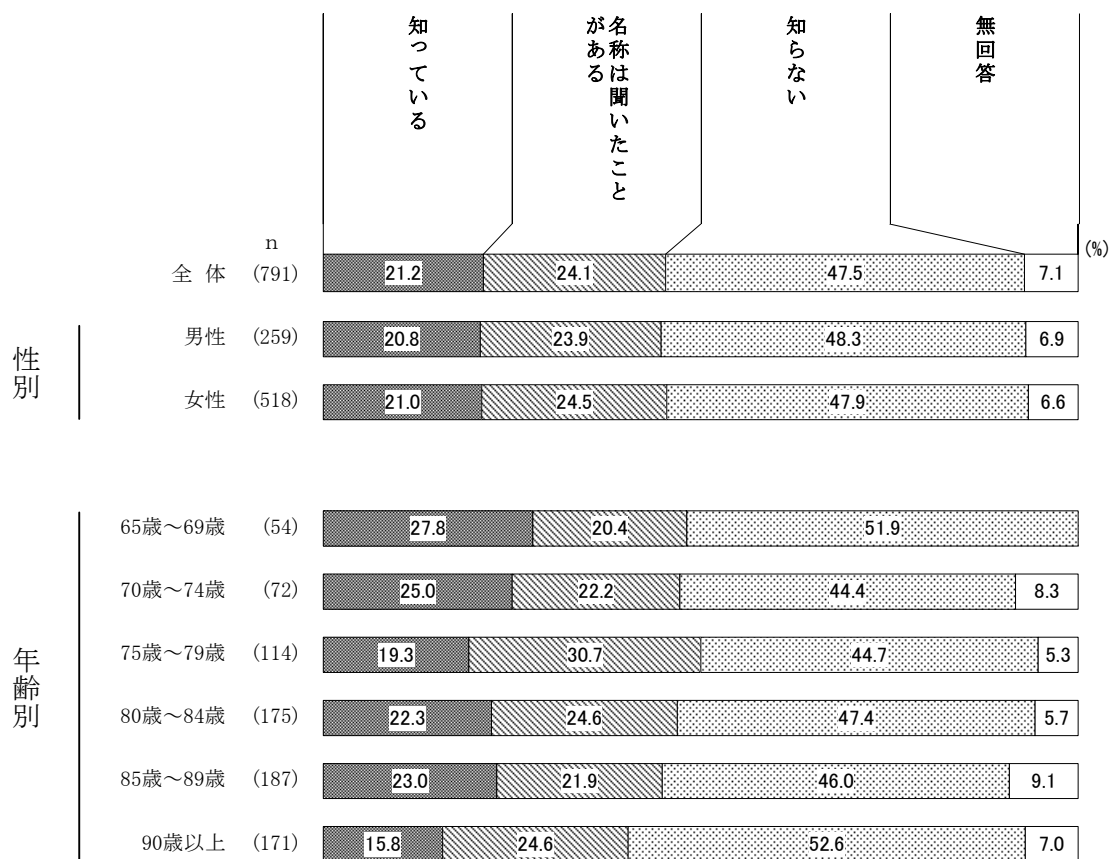
在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「介護してくれる家族等」(53.4%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。次いで、「往診してくれる医療機関」(46.0%)が4割台半ばを超え、「安心して住み続けられる住まい」(36.9%)が3割台半ばを超える。

(8) 緩和医療・ケアについて

①がんの「緩和医療・ケア」の周知状況

問27 あなたは、がんの「緩和医療・ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表 133> がんの「緩和医療・ケア」の周知状況(性別/年齢別)



がんの「緩和医療・ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(21.2%)は2割強、「名称は聞いたことがある」(24.1%)は2割台半ば近くとなっている。

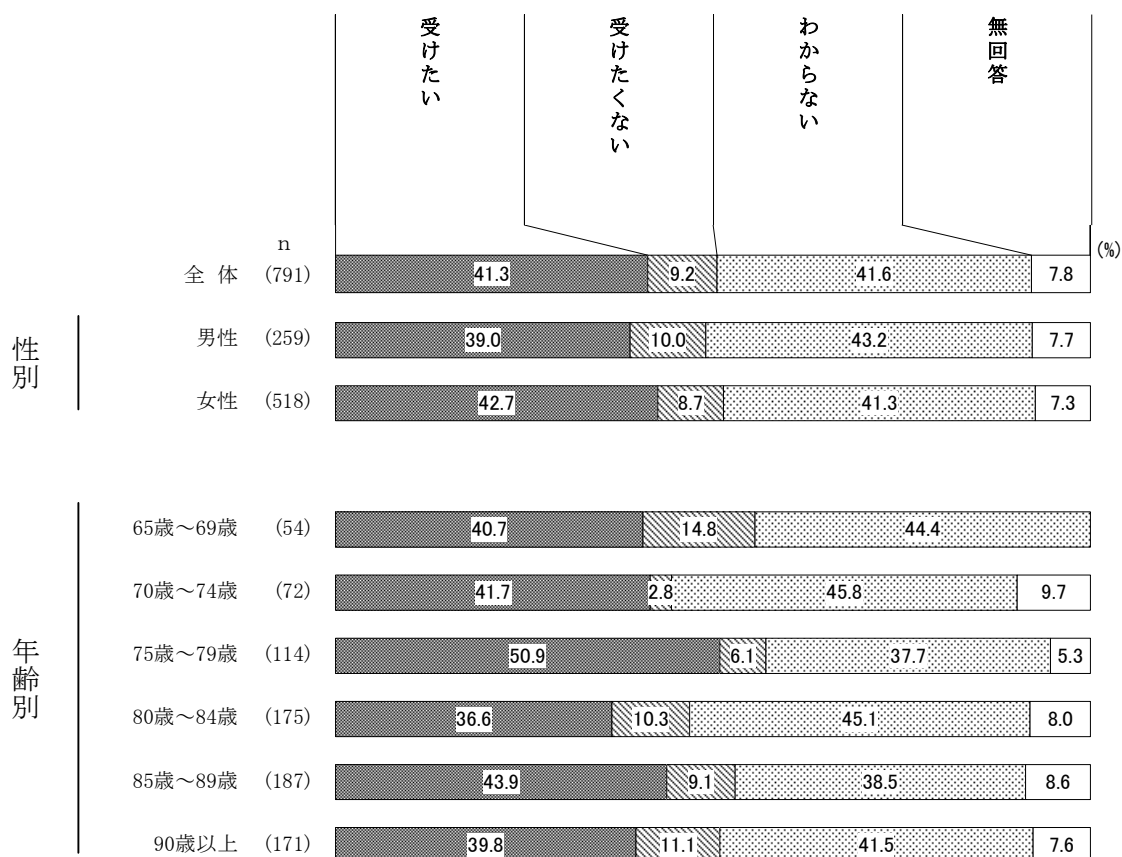
性別で見ると、「知っている」に、大きな差は見られない。

年齢別で見ると、「知っている」は、65歳～69歳(27.8%)で2割台半ばを超え、高くなっている。

②がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

問28 あなたは、がんで、病状の回復が期待できない場合、「緩和医療・ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表 134> がんの「緩和医療・ケア」の利用意向(性別/年齢別)



がんの「緩和医療・ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(41.3%)は4割強となっている。

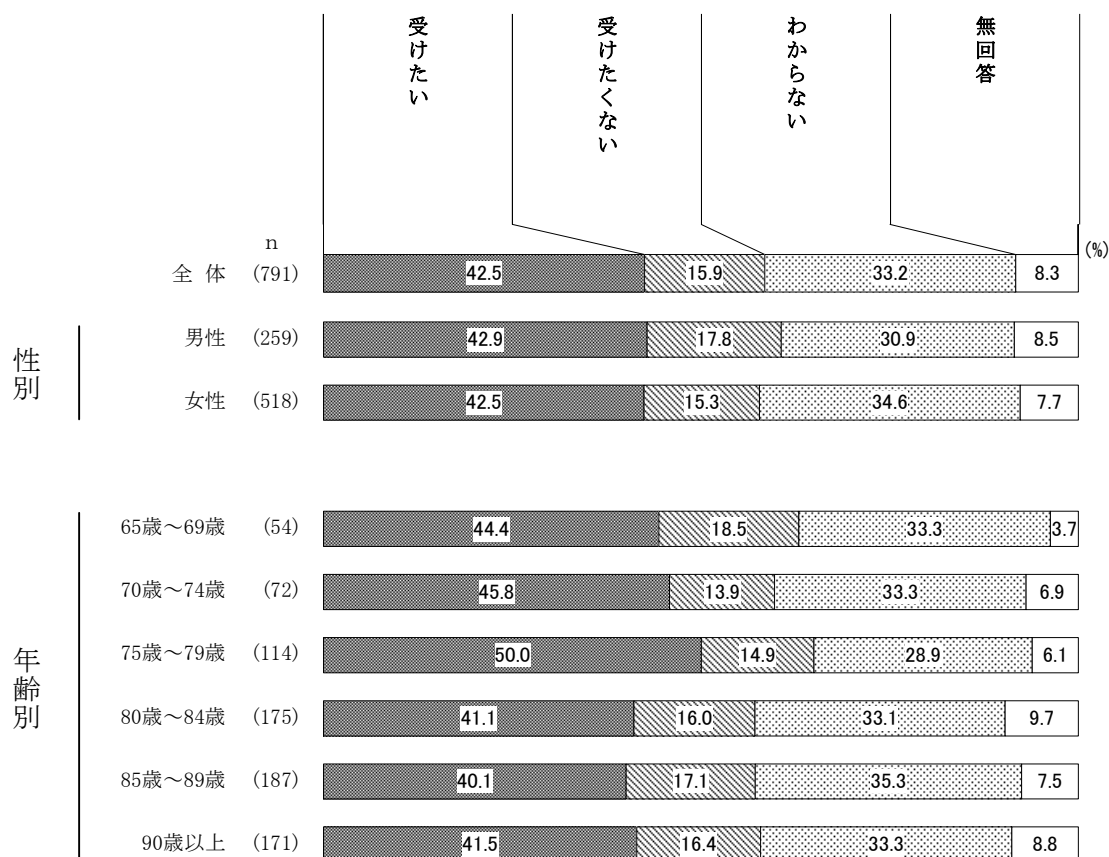
性別でみると、「受けたい」は、女性のほうが3.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「受けたい」は、75歳～79歳(50.9%)で約5割と高くなっている。また、割合の最も高い75歳～79歳(50.9%)と最も低い90歳以上(39.8%)との差異は、11.1ポイントとなっている。

③がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問29 あなたは、さらに高齢になり、がん以外の病気で、病状の回復が期待できない場合、症状の緩和を主とした医療・ケアを受けたいですか。(1つに○)

<図表 135> がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向(性別/年齢別)



がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向をたずねたところ、「受けたい」(42.5%)は4割強となっている。

性別でみると、「受けたい」に、大きな差は見られない。

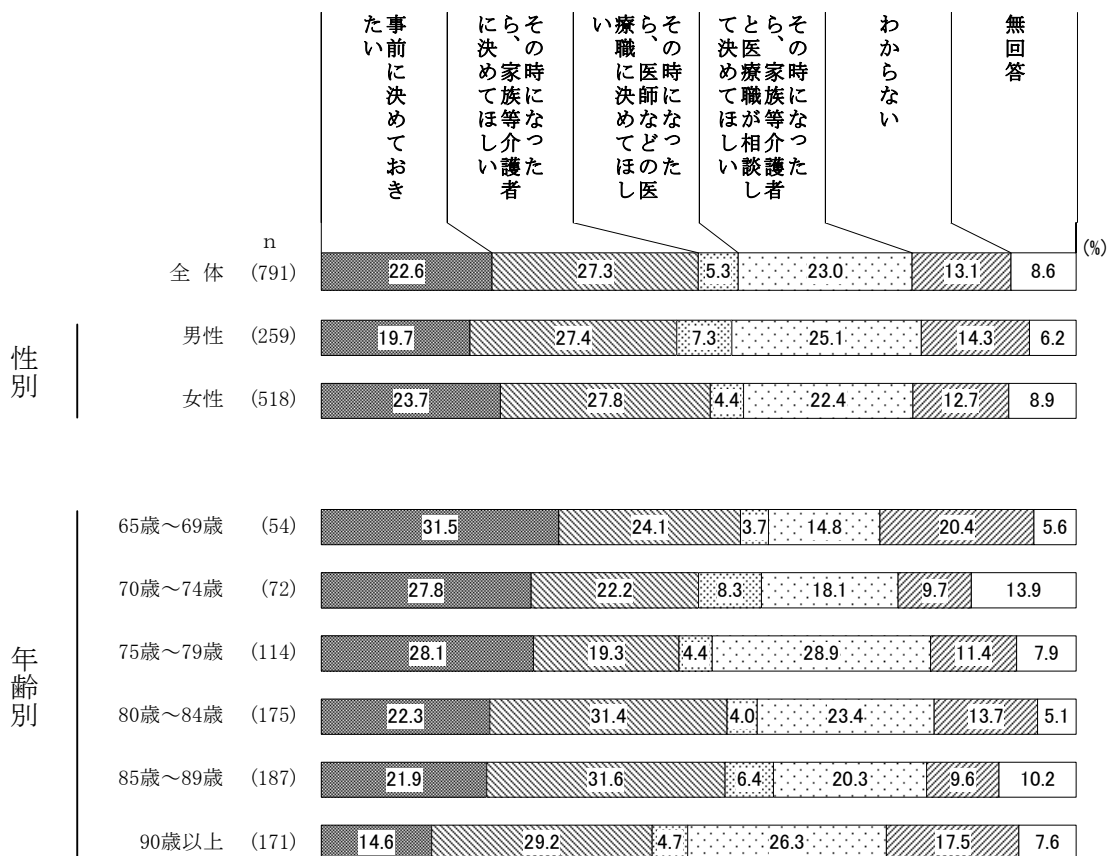
年齢別でみると、「受けたい」は、すべての年齢で4割以上となっている。

(9) 看取りについて

①自身で判断できなくなったときの医療・介護

問30 あなたは、ご自身で判断できなくなったときの医療や介護を、どのようにしたいですか。(1つに○)

<図表 136> 自身で判断できなくなったときの医療・介護(性別/年齢別)



自身で判断できなくなった時の医療や介護についてたずねたところ、「その時になったら、家族等介護者に決めてほしい」(27.3%)が2割台半ばを超え最も高く、次いで、「その時になったら、家族等介護者と医療職が相談して決めてほしい」(23.0%)と「事前決めておきたい」(22.6%)が、2割以上となっている。

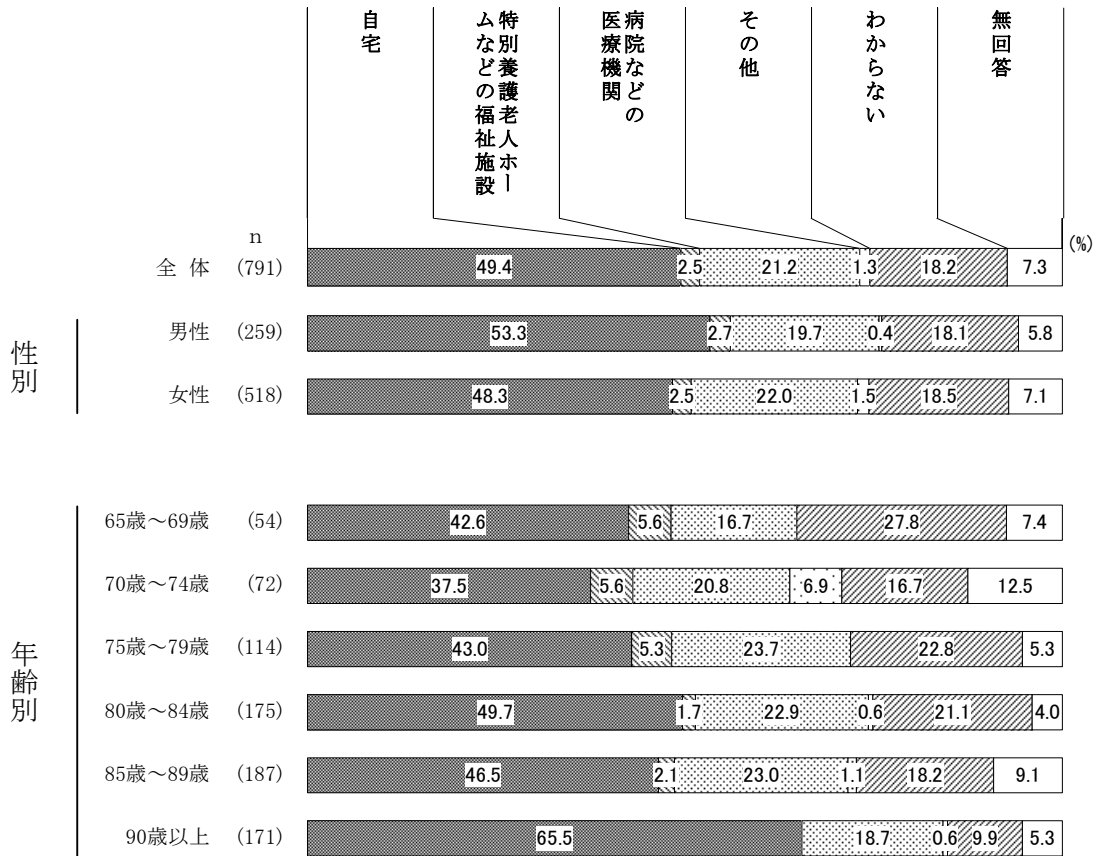
性別でみると、「事前決めておきたい」は、女性のほうが4.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「その時になったら、家族等介護者に決めてほしい」は、80歳～84歳及び85歳～89歳でそれぞれ3割強と高くなっている。また、「事前決めておきたい」は、年齢が上がるほど、減少する傾向にある。

②最期を迎えたい場所

問31 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表 137> 最期を迎えたい場所(性別/年齢別)



最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(49.4%)が5割弱で最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(21.2%)が2割強となっている。

性別で見ると、「自宅」は、男性のほうが5.0ポイント高くなっている。

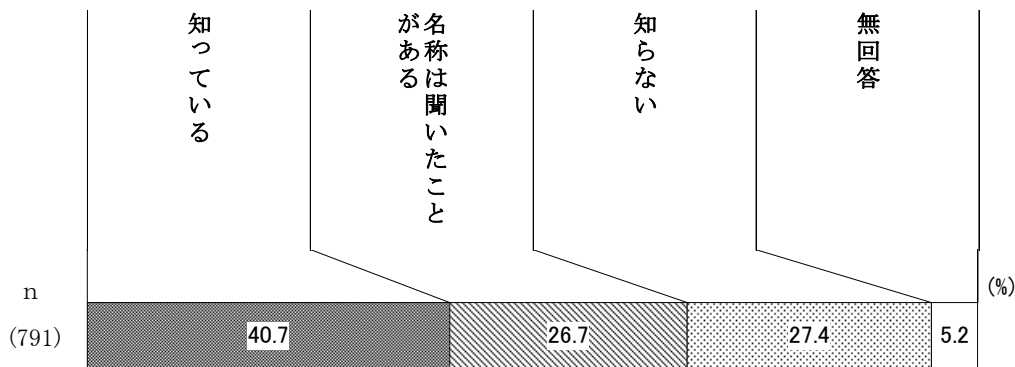
年齢別で見ると、「自宅」は、90歳以上(65.5%)で6割台半ばを超え、高くなっている。

(10) 権利擁護について

① 成年後見制度の周知状況

問32 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか。(1つに○)

<図表 138> 成年後見制度の周知状況

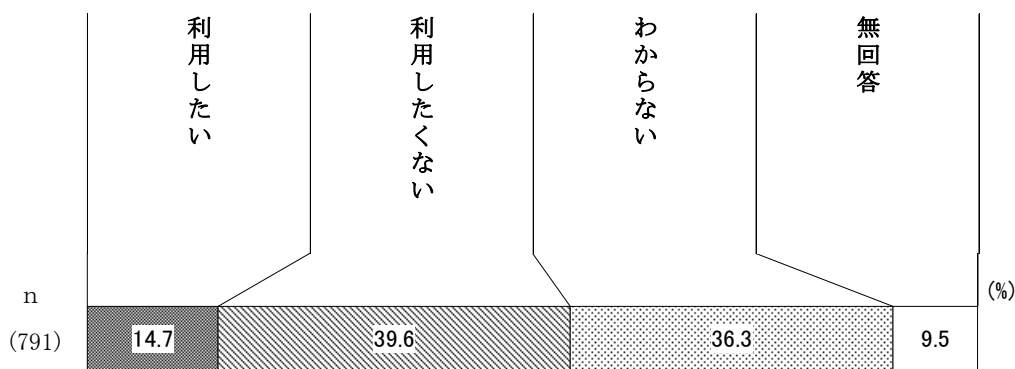


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「知っている」(40.7%)は約4割、「名称は聞いたことがある」(26.7%)は2割台半ばを超える。

② 成年後見制度の利用意向

問33 あなたは、判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいですか。(1つに○)

<図表 139> 成年後見制度の利用意向

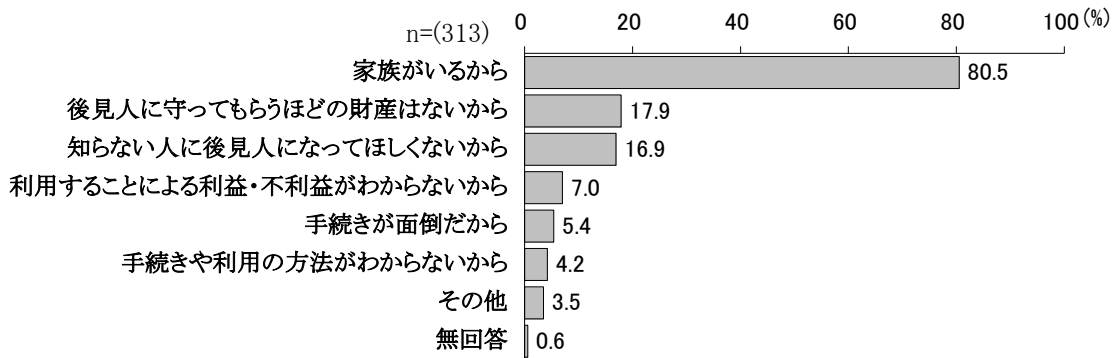


成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「利用したい」(14.7%)は1割台半ば近く、「利用したくない」(39.6%)が4割弱となっている。

③成年後見制度を利用したくない理由

問33-1 《問33で「2 利用したくない」と回答した方のみお答えください》
 利用したくない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 140> 成年後見制度を利用したくない理由

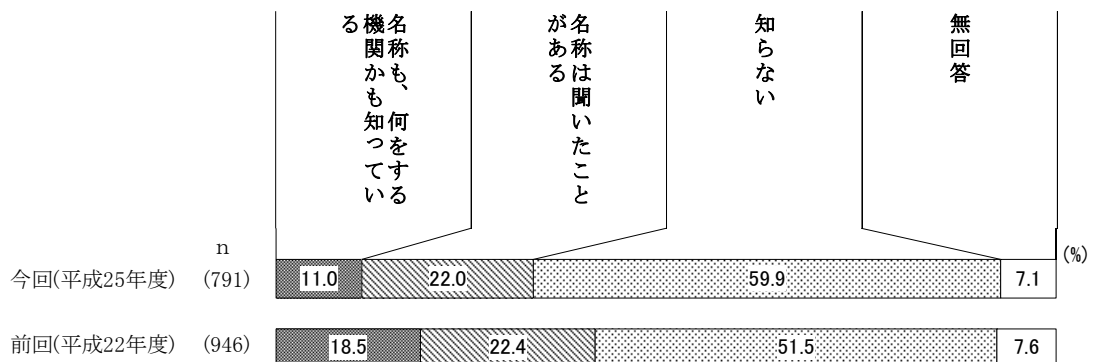


問33で成年後見制度を「利用したくない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「家族がいるから」(80.5%)が約8割で突出している。次いで、「後見人に守ってもらうほどの財産はないから」(17.9%)と「知らない人に後見人になってほしくないから」(16.9%)がともに1割台半ばを超える。

④新宿区成年後見センターの周知状況

問34 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか。(1つに○)

<図表 141> 新宿区成年後見センターの周知状況 (経年比較)



新宿区成年後見センターの認知度をたずねたところ、「名称も、何をする機関かも知っている」(11.0%)は1割強、「名称は聞いたことがある」(22.0%)は2割強となっている。

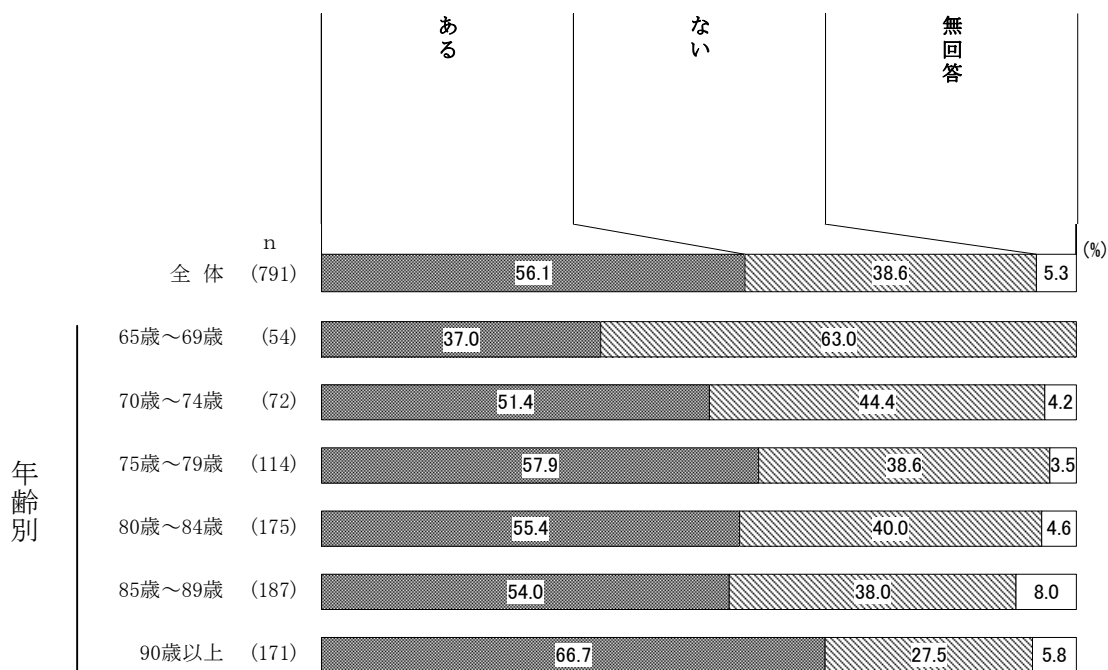
経年比較でみると、「名称も、何をする機関かも知っている」は、前回調査に比べ、7.5ポイント低くなっている。

(11) 認知症について

①この1年間の物忘れ、理解・判断力の低下の状況

問35 あなたは、この1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる
ことがありますか。(1つに○)

<図表 142> この1年間の物忘れ、理解・判断力の低下の状況 (年齢別)



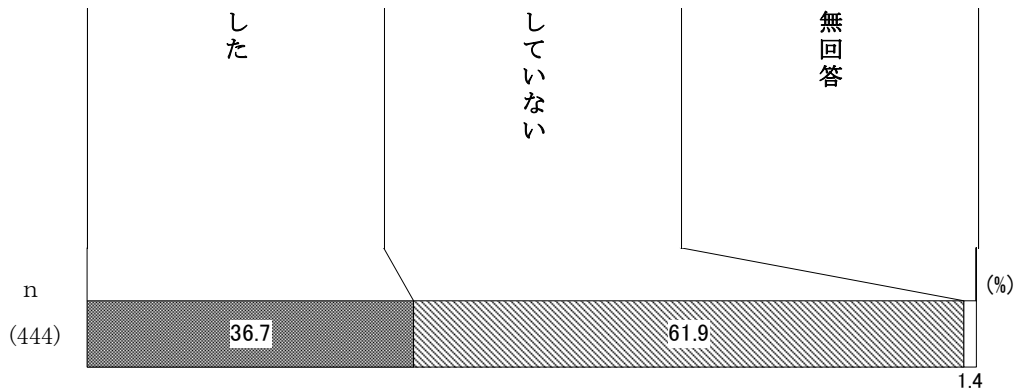
この1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下を感じるかどうかについてたずねたところ、「ある」(56.1%)は5割台半ばを超える。

年齢別でみると、「ある」は、70歳を超えると5割以上となっている。

②物忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

問35-1 <<問35で「1 ある」と回答した方のみお答えください>>
物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか。(1つに○)

<図表 143> 物忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

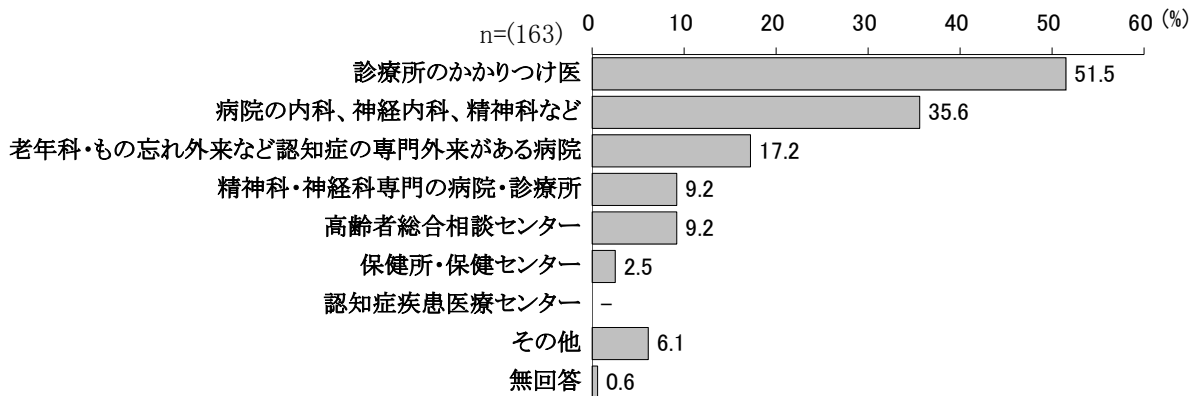


問35で1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下を感じる人が「ある」と回答した人に相談したかどうかをたずねたところ、「していない」(61.9%)が6割強となっている。

③物忘れや理解・判断力の低下についての相談先

問35-1-1 <<問35-1で「1 した」と回答した方のみお答えください>>
どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 144> 物忘れや理解・判断力の低下についての相談先

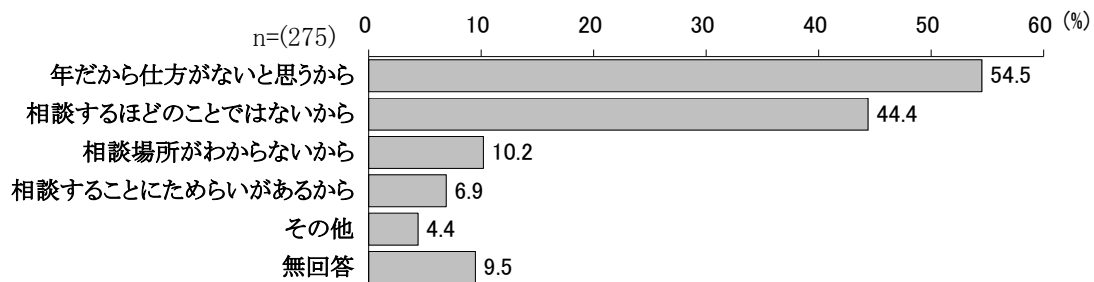


問35-1で相談を「した」と回答した人に相談先をたずねたところ、「診療所のかかりつけ医」(51.5%)が最も高く、次いで、「病院の内科、神経内科、精神科など」(35.6%)が3割台半ばを超える。

④相談していない理由

問35-1-2 <<問35-1で「2 していない」と回答した方のみお答えください>>
 相談していない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 145> 相談していない理由



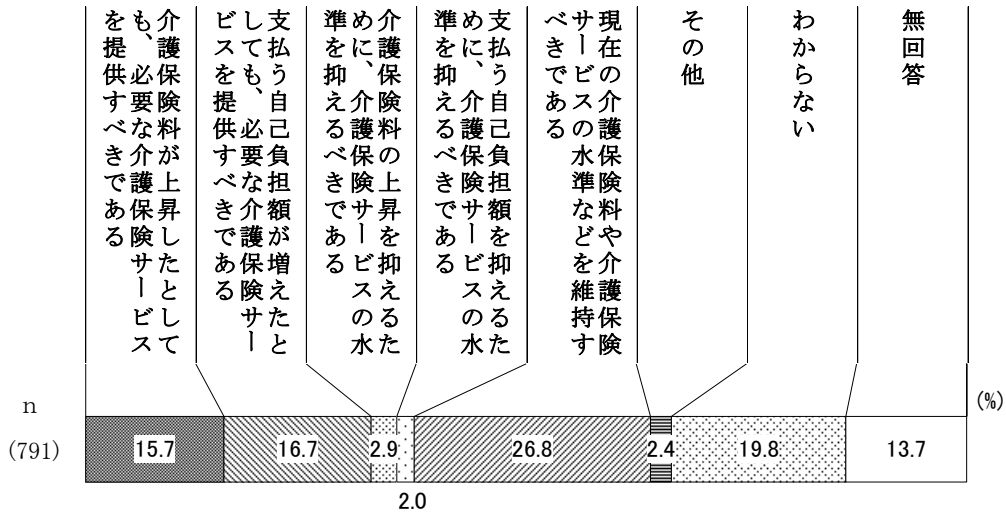
問35-1で相談を「していない」と回答した人に相談していない理由をたずねたところ、「年だから仕方がないと思うから」(54.5%)が最も高く、次いで、「相談するほどのことではないから」(44.4%)が4割台半ば近くとなっている。

(12) 介護保険制度について

①介護保険のサービスと保険料についての考え

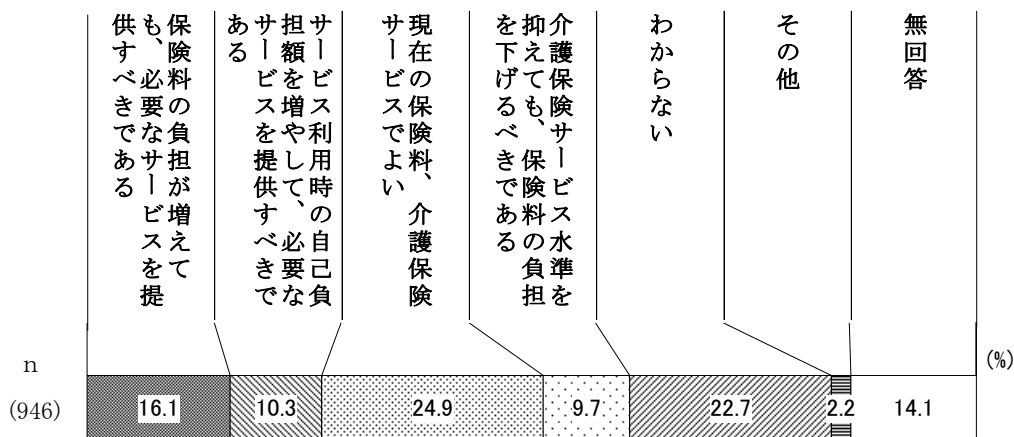
問36 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 146> 介護保険のサービスと保険料についての考え

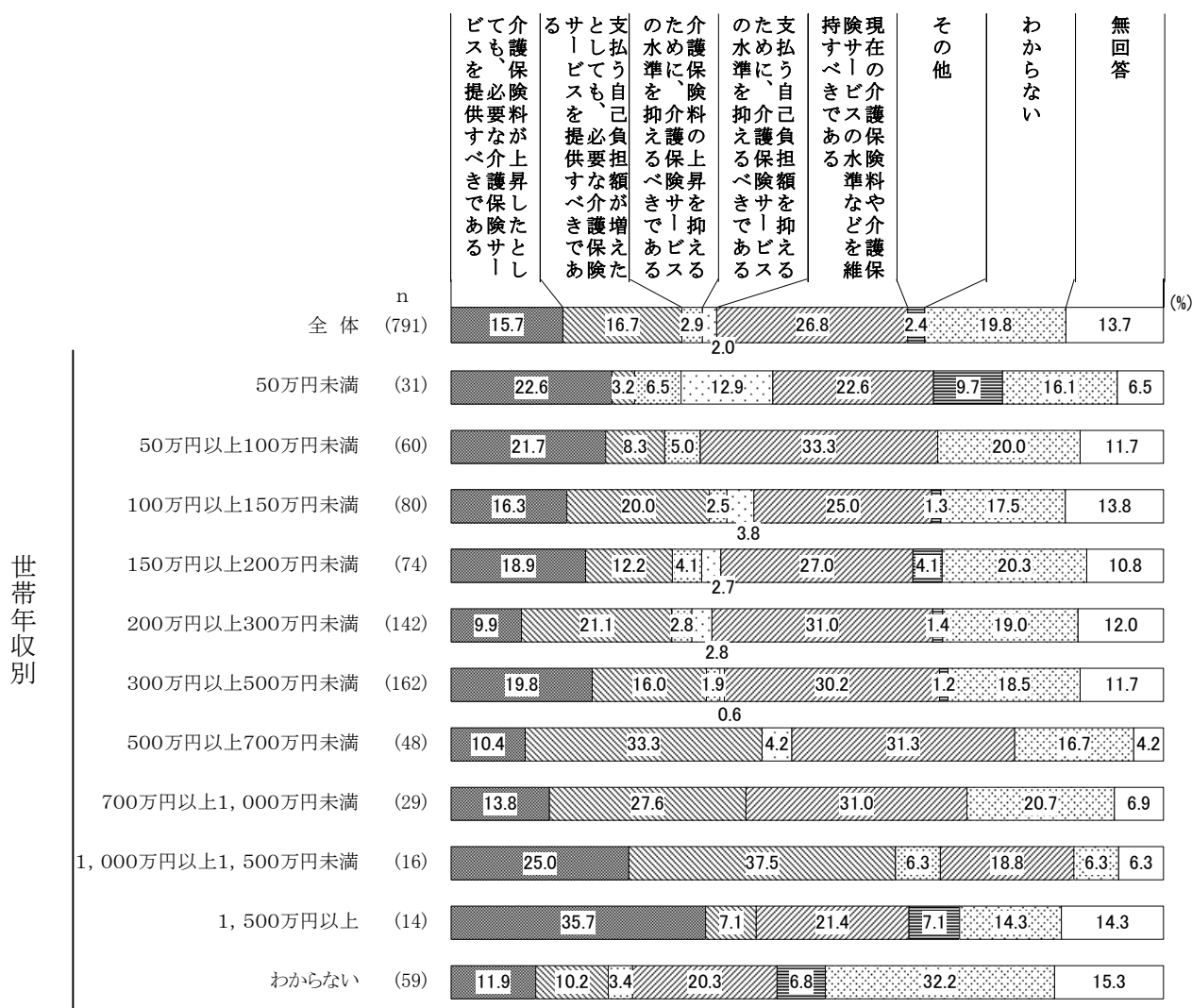


介護保険のサービスと保険料についての考えをたずねたところ、「現在の介護保険料や介護保険サービスの水準などを維持すべきである」(26.8%)が最も高くなっている。「支払う自己負担額が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(16.7%)及び「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(15.7%)が1割台半ば前後となっている。

<図表 147> (参考) 介護保険のサービスと保険料についての考え：前回 (平成22年度調査)



<図表 148> 介護保険のサービスと保険料についての考え（世帯年収別）



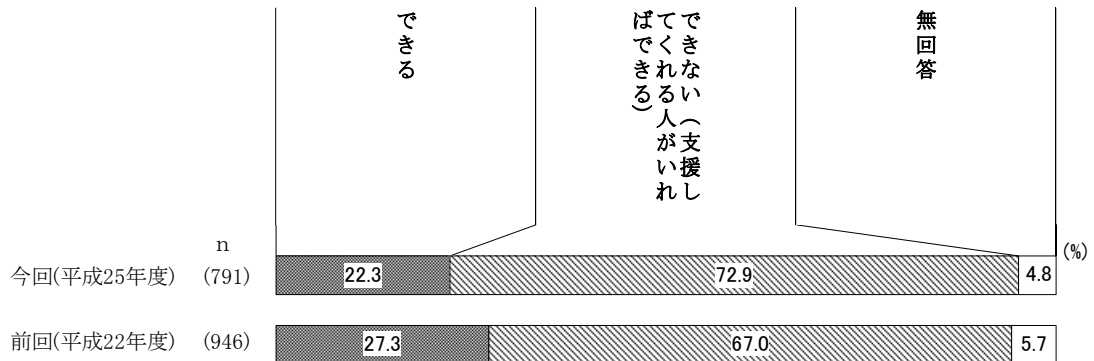
世帯年収別でみると、「現在の介護保険料や介護保険サービスの水準などを維持すべきである」は、50万円以上100万円未満（33.3%）で3割台半ば近くと高くなっている。

(13) 災害時の避難支援について

① 緊急時の避難状況

問37 あなたは、災害時や火災など緊急時に、一人で避難できますか。(1つに○)

<図表 149> 緊急時の避難状況 (経年比較)

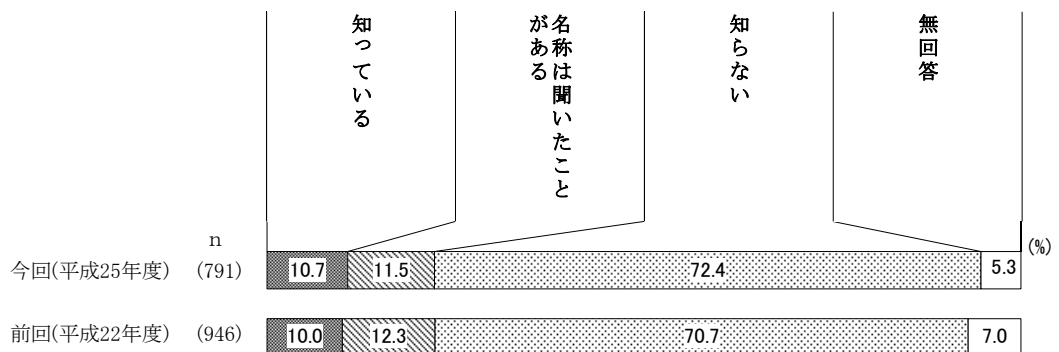


緊急時に一人で避難できるかどうかをたずねたところ、「できる」(22.3%)は2割強となっている。経年比較でみると、「できる」は、前回調査に比べ、5.0ポイント低くなっている。

② 災害時要援護者登録名簿の周知状況

問38 あなたは、災害時要援護者登録名簿をご存じですか。(1つに○)

<図表 150> 災害時要援護者登録名簿の周知状況 (経年比較)



災害時要援護者登録名簿の認知度をたずねたところ、「知っている」(10.7%)は約1割、「名称は聞いたことがある」(11.5%)は1割強となっている。

経年比較でみると、「知っている」は、前回調査と大きな差は見られない。

(14) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

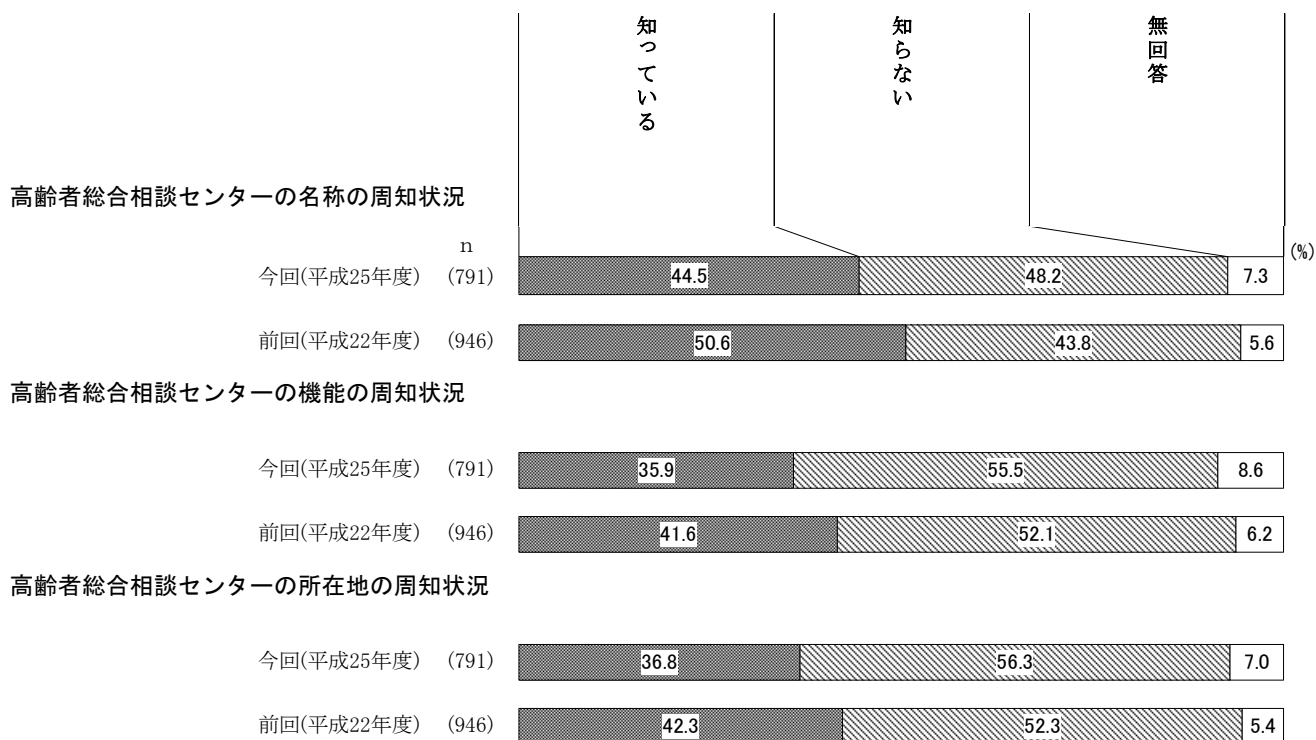
①高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の周知状況

問39 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)

問40 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)

問41 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表 151> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の周知状況 (経年比較)



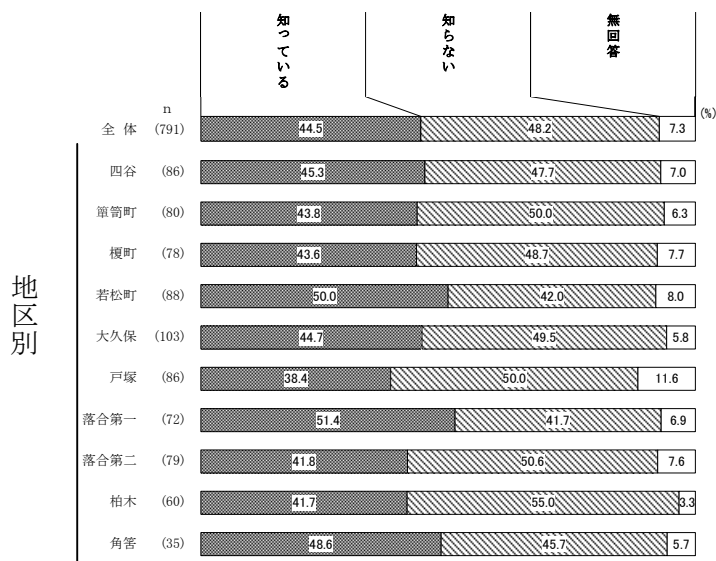
高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(44.5%)は4割台半ば近く、「知らない」(48.2%)は5割近くとなっている。

高齢者総合相談センターの機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(35.9%)は3割台半ば、「知らない」(55.5%)は5割台半ばとなっている。

高齢者総合相談センターの所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(36.8%)は3割台半ばを超え、「知らない」(56.3%)は5割台半ばを超える。

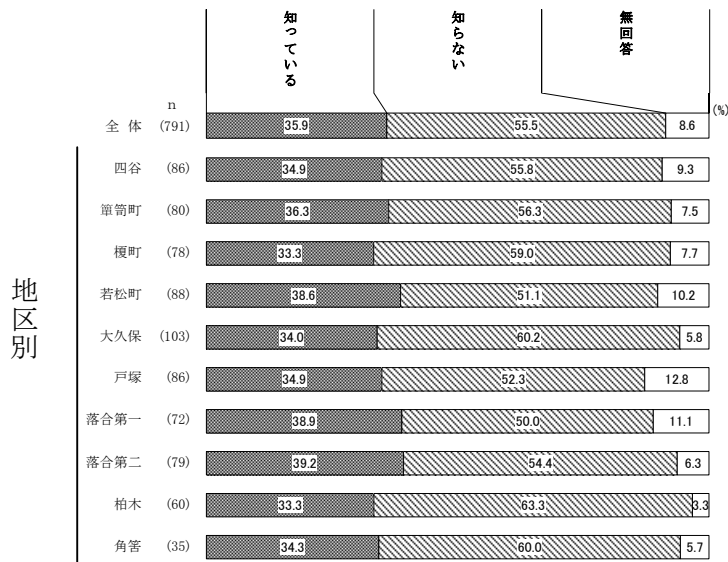
経年比較でみると、名称、機能、所在地とも、「知っている」は、前回調査に比べ、それぞれ6.1ポイント、5.7ポイント、5.5ポイント低くなっている。

<図表 152> 高齢者総合相談センターの名称の周知状況（地区別）



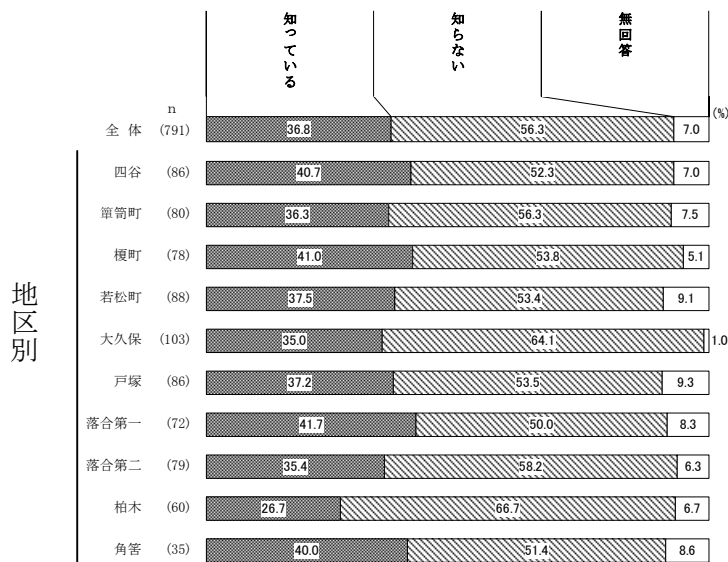
地区別でみると、「知っている」は、若松町（50.0%）及び落合第一（51.4%）で5割以上と高くなっている。

<図表 153> 高齢者総合相談センターの機能の周知状況（地区別）



地区別でみると、「知っている」は、落合第二（39.2%）、落合第一（38.9%）、若松町（38.6%）で高くなっている。

<図表 154> 高齢者総合相談センターの所在地の周知状況（地区別）

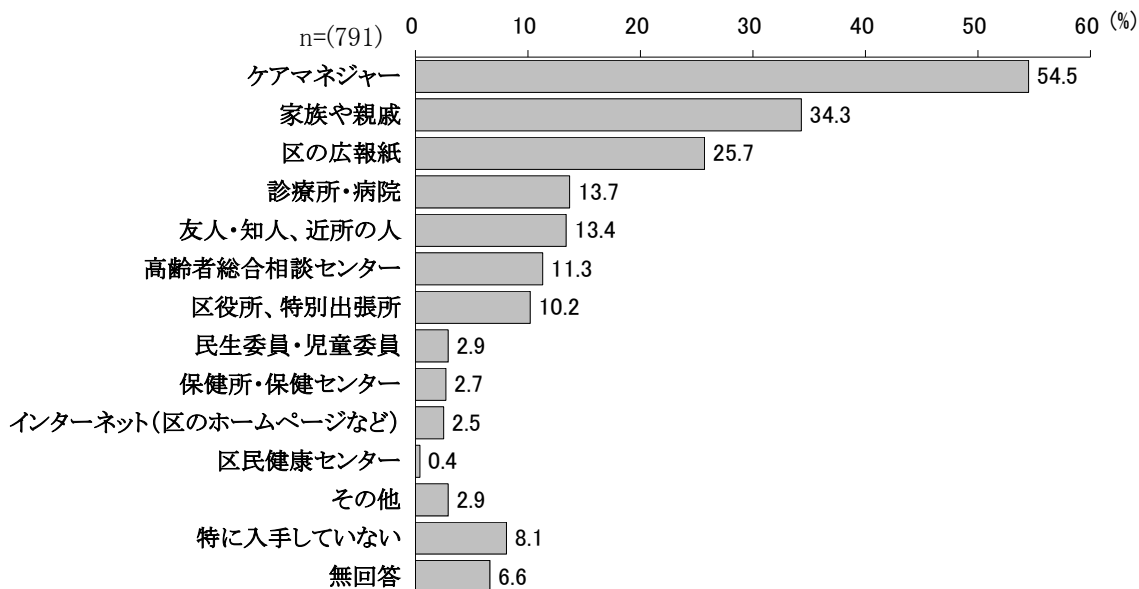


地区別でみると、「知っている」は、四谷（40.7%）、榎町（41.0%）、落合第一（41.7%）、角筈（40.0%）でそれぞれ4割以上と高くなっている。

②健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問42 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 155> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

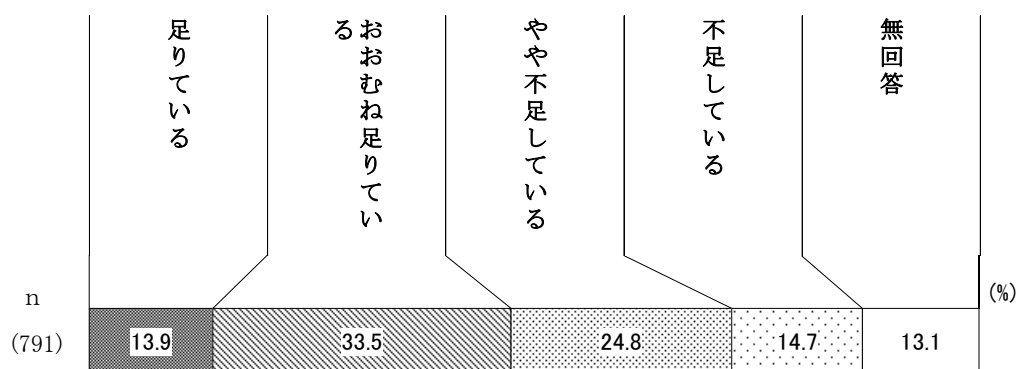


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段をたずねたところ、「ケアマネジャー」(54.5%)が最も高く、次いで、「家族や親戚」(34.3%)が3割台半ば近く、「区の広報紙」(25.7%)が2割台半ばとなっている。

③健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問43 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。
(1つに○)

<図表 156> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度



入手している健康や福祉サービスに関する情報量の充実度をたずねたところ、「おおむね足りている」(33.5%)が最も高く、次いで、「やや不足している」(24.8%)が2割台半ば近くとなっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問44 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、105人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「サービスについて」の順であった。

各事項（その他除く）について、以下にいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	サービスについて	高齢者施策について	情報提供・相談について	高齢者向け設について	人材・ボランティアについて	医療・保健について	アンケートについて	健康・介護予防について	家族等介護者について	認知症について	災害時・緊急時のこと	その他
36	28	13	11	10	7	6	4	3	3	3	2	19

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・年金で生活しているが、毎年年金額が減らされ、国民健康保険料・介護保険料が上がったらどうしたら良いかと不安になる。
- ・介護保険の金額は妥当だと思う。
- ・ケアマネジャーへの連絡方法や利用の仕方など、介護保険の仕組みがよく分からない。
- ・要介護度の認定の際は、もっと細部にわたって調べてほしい。

【サービスについて】

- ・週一回の掃除にホームヘルパーが来てくれることになり実にありがたく思っている。また、月一回のケアマネジャーの訪問を心強く感じている。
- ・いつもケアマネジャーには大変お世話になっており、心強く思っている。
- ・ホームヘルパーを頼んでも、掃除について、窓ふきはダメ、外の掃除はダメということで、これは少しおかしいと思う。

【高齢者施策について】

- ・高齢者の増加で、福祉費等の増大は大変だろうが、出来るだけ対象者が生活していけるように努力してほしい。

2-2 要支援・要介護認定者調査

【情報提供・相談について】

- ・家族や子ども等で福祉の情報を詳しい者や情報収集能力の高い者は、福祉や介護の相談やサービスをスムーズに利用しやすいが、高齢者のみで情報収集力のない人達は、相談にすら行けず、全く福祉のサービスを受けられず、苦しい生活状況に陥りやすい。

【高齢者向け施設について】

- ・自己負担が多少増額されても、介護している者が安心して、託す事が出来る高齢者向け施設を増やしてもらいたいと思う。

【人材・ボランティアについて】

- ・いろいろな区の施策について、もっとケアマネジャーから教えてほしい。

【医療・保健について】

- ・高齢者の医療費を現在の1割のままにしてほしい。

【アンケートについて】

- ・このアンケートは高齢者にとっては大変である。もっと簡素なアンケートを考えるべきだと思う。家族のいない方には大変なことである。

【健康・介護予防について】

- ・自宅での筋力向上のトレーニング方法を教わり、効果が出始めていると思う。

【家族等介護者について】

- ・介護者の心配り、目配り、気配りは、傍で見ているより大変である。

【認知症について】

- ・認知症患者とその家族が、半日から1日程度楽しめる場を提供してほしい。

【災害時・緊急時のこと】

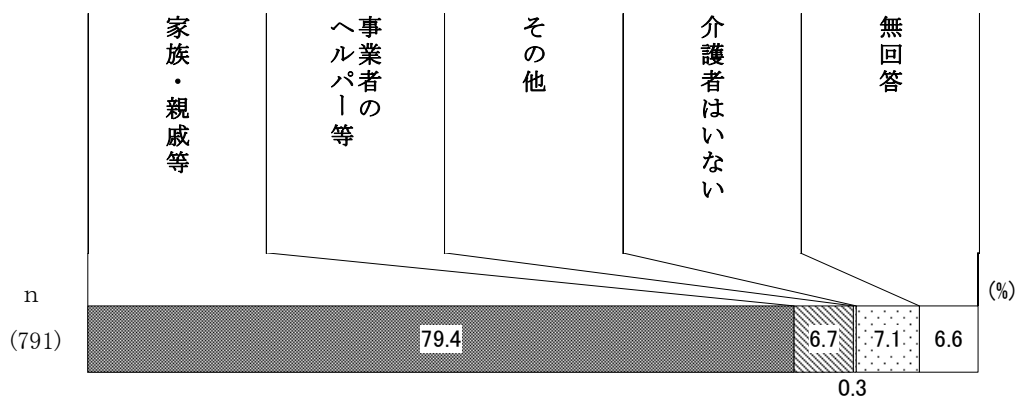
- ・介護してくれる別居の子ども達は、通いなので、高齢者二人だけの時の突発事態に応じてもらえる支援を希望する。

(15) 主介護者の状況について

①介護者の続柄

問45 あなたを主に介護している方はどなたですか。(1つに○)

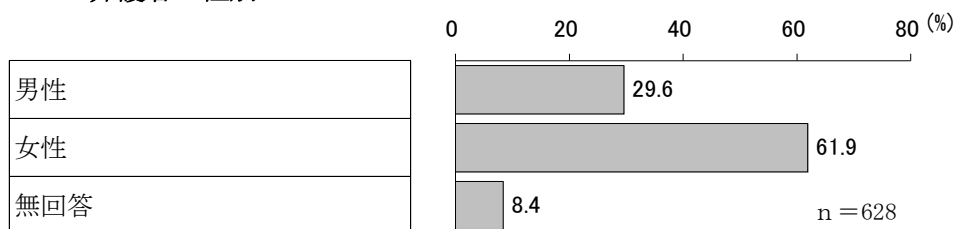
<図表 157> 主介護者



主介護者をたずねたところ、「家族・親戚等」(79.4%)が8割弱と最も高くなっている。

②介護者の性別 (問46)

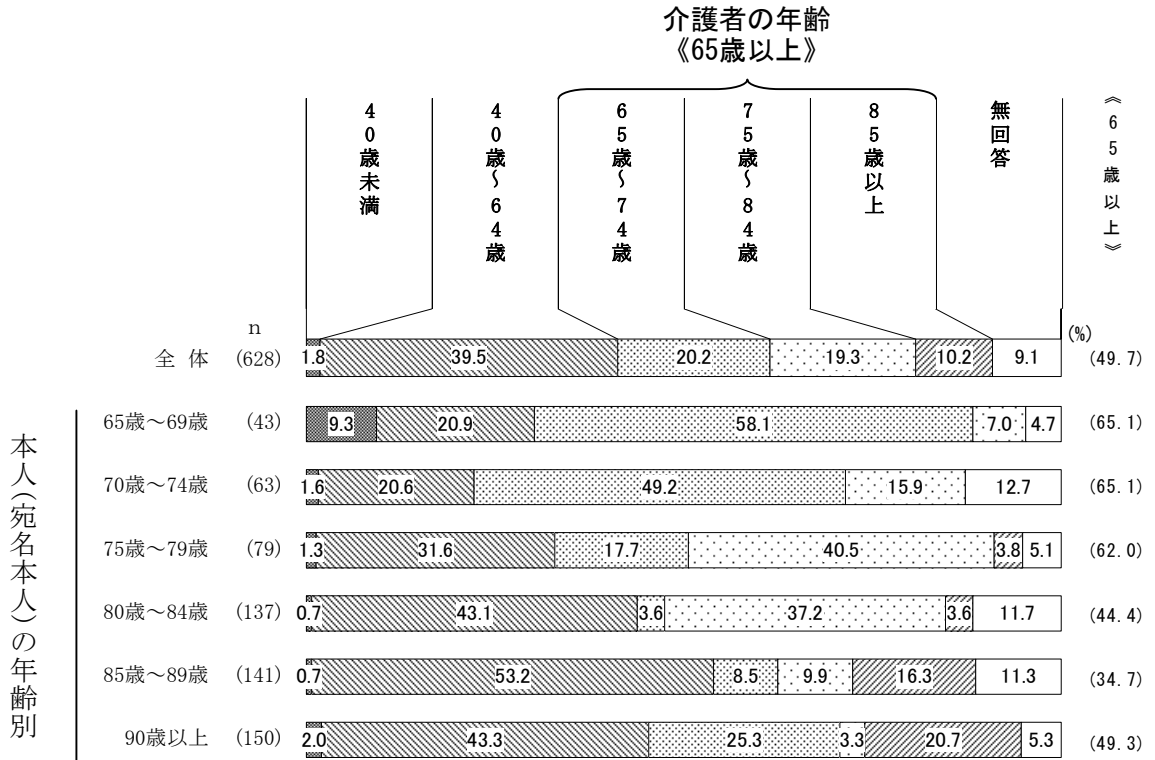
<図表 158> 介護者の性別



介護者の性別をたずねたところ、「男性」(29.6%)は3割弱、「女性」(61.9%)は6割強となっている。

③介護者の年齢（問47）

<図表 159> 介護者の年齢（本人(宛名本人)の年齢別）



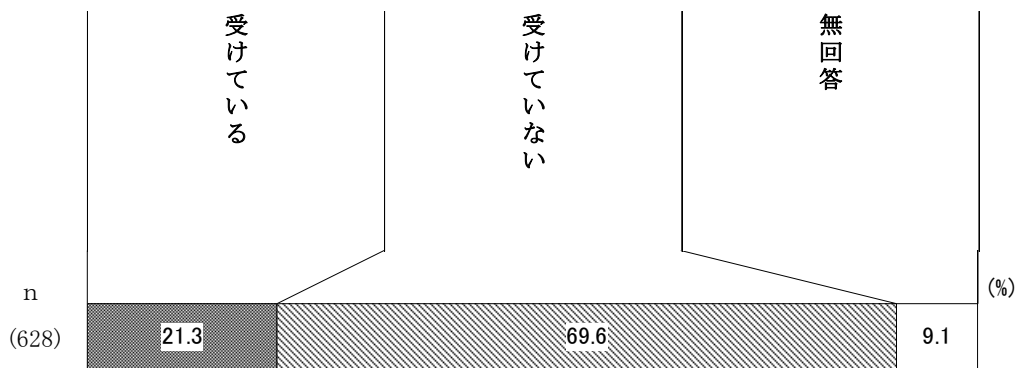
介護者の年齢をたずねたところ、「40歳～64歳」（39.5%）が4割弱と最も高く、次いで、「65歳～74歳」（20.2%）、「75歳～84歳」（19.3%）が2割前後となっている。

本人(宛名本人)の年齢別でみると、介護者の年齢《65歳以上》の割合は、本人65歳～69歳と70歳～74歳（65.1%）でともに6割台半ばと高くなっている。

④介護保険の認定状況

問48 あなたは、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

<図表 160> 介護保険の認定状況

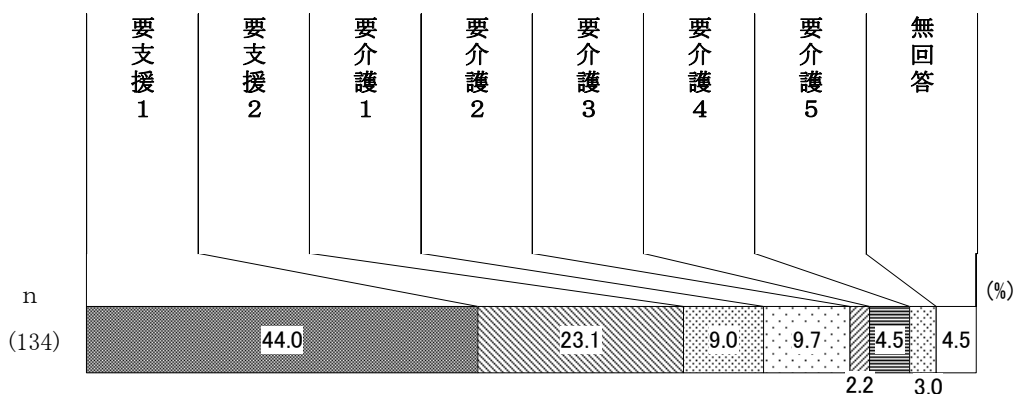


主介護者の介護保険の認定状況をたずねたところ、「受けている」(21.3%)は2割強となっている。

⑤介護者の要介護度

問48-1 <<問48で「1 受けている」と回答した方のみお答えください>>
要介護度は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 161> 介護者の要介護度

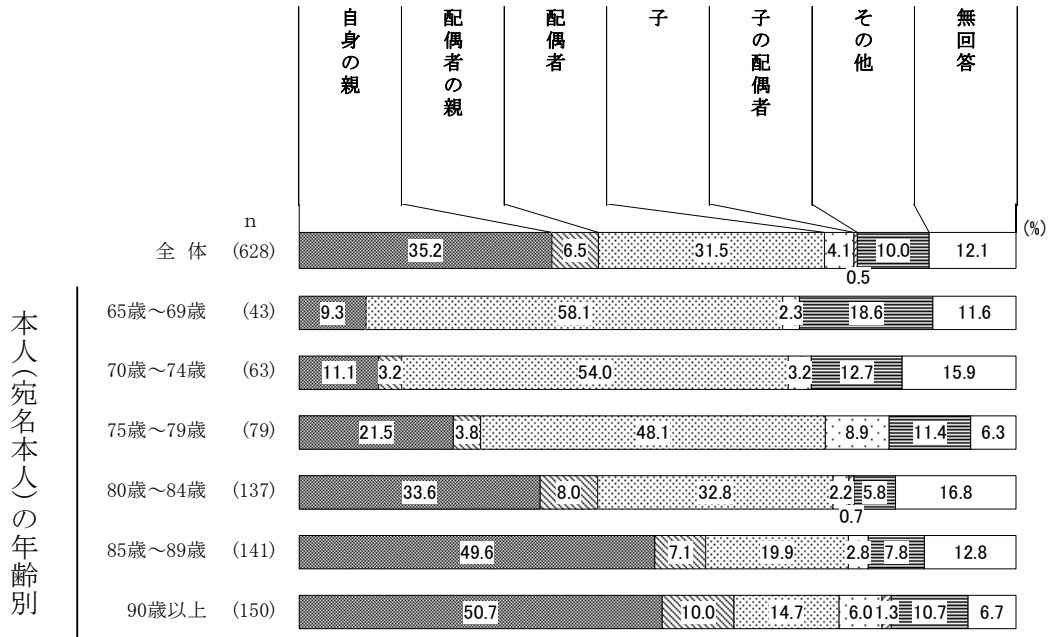


問48で要介護認定を「受けている」と回答した人に、主介護者の要介護度をたずねたところ、「要支援1」(44.0%)が最も高く、次いで、「要支援2」(23.1%)が2割台半ば近くとなっている。

⑥宛名の本人との関係

問49 あなたからみて、宛名のご本人はどちらにあたりますか。(1つに○)

<図表 162> 宛名の本人との関係 (本人(宛名本人)の年齢別)



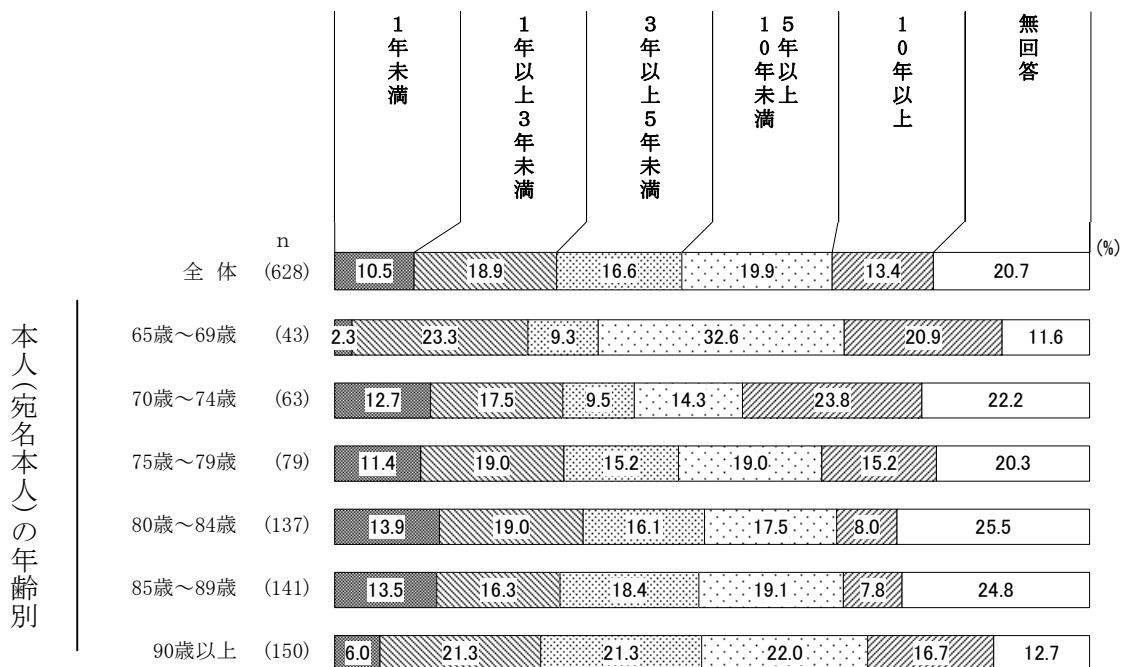
主介護者と宛名の人の関係をたずねたところ、「自身の親」(35.2%)が最も高く、次いで、「配偶者」(31.5%)が3割強となっている。

本人(宛名本人)の年齢別でみると、「配偶者」は、本人65歳～69歳(58.1%)で6割近くとなっており、年齢が上がるほど、減少する傾向にある。

⑦介護年数

問50 あなたは、宛名のご本人を何年介護していますか。(1つに○)

<図表 163> 介護年数 (本人(宛名本人)の年齢別)



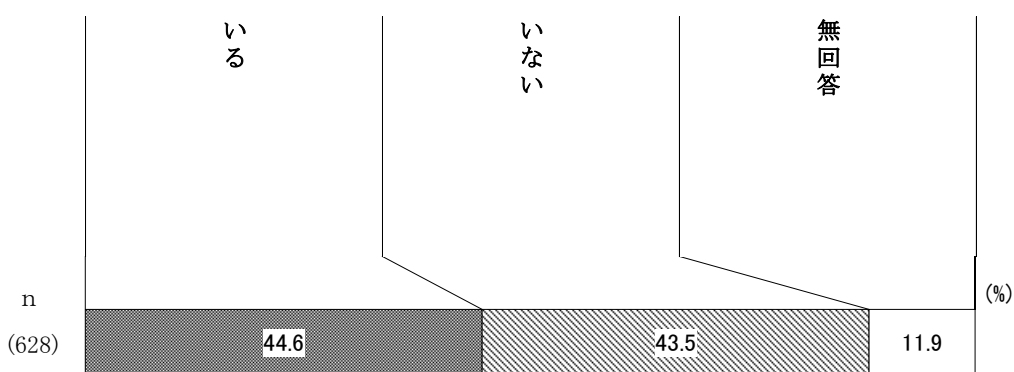
介護年数をたずねたところ、「5年以上10年未満」(19.9%)が最も高く、次いで、「1年以上3年未満」(18.9%)が2割近く、「3年以上5年未満」(16.6%)が1割台半ばを超える。

本人(宛名本人)の年齢別で見ると、「5年以上10年未満」は、本人65歳～69歳(32.6%)で3割強と高くなっている。

⑧副介護者の有無

問51 あなたを手助けするような、副介護者の方はいますか。(1つに○)

<図表 164> 副介護者の有無

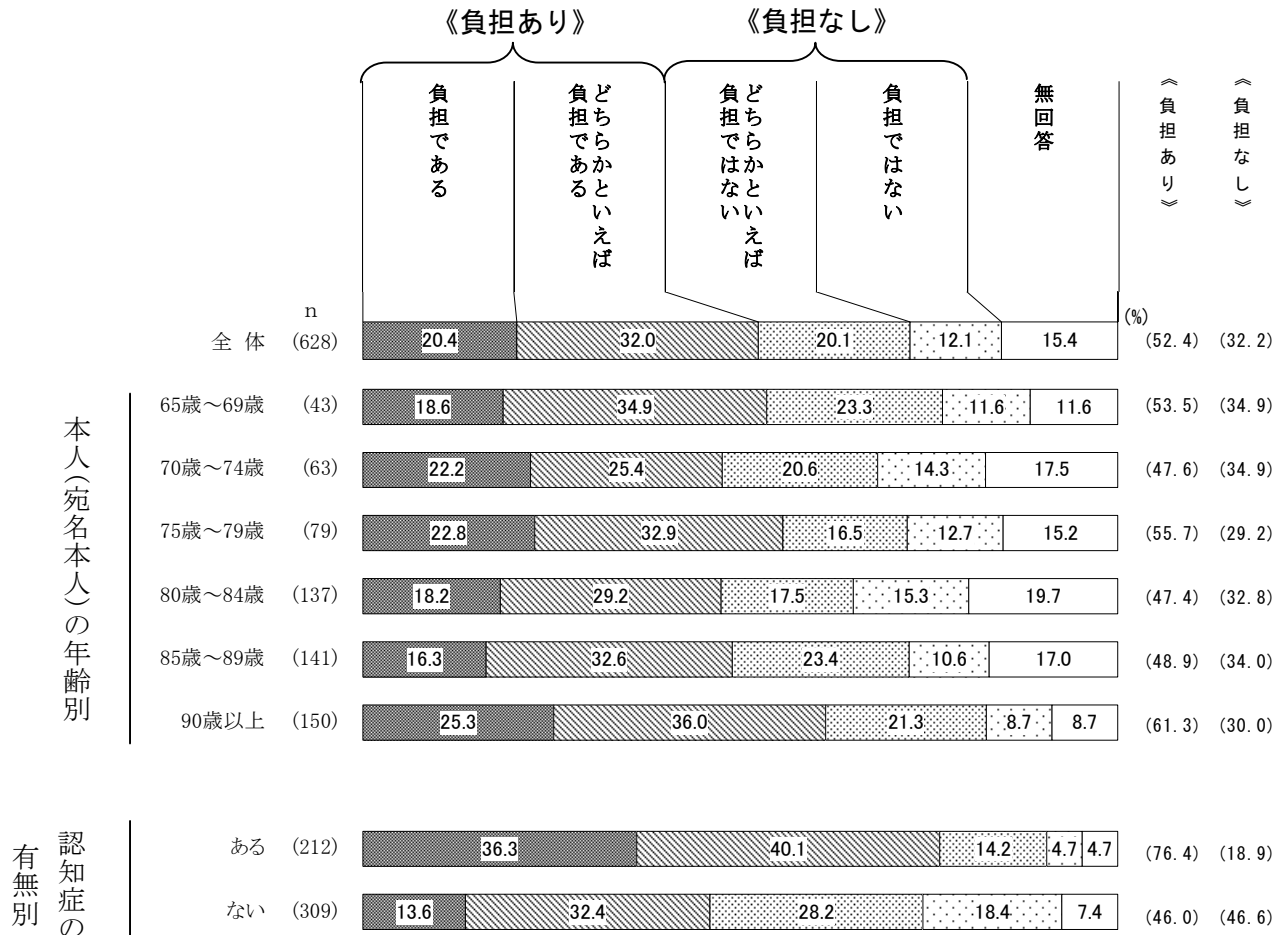


副介護者の有無をたずねたところ、「いる」(44.6%)、「いない」(43.5%)ともに4割台半ば近くとなっている。

⑨介護負担感

問52 あなたの介護負担感は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 165> 介護負担感(本人(宛名本人)の年齢別/認知症の有無別)



介護負担感をたずねたところ、「負担である」と「どちらかといえば負担である」をあわせた《負担あり》(52.4%)は5割強となっている。一方、「どちらかといえば負担ではない」と「負担ではない」をあわせた《負担なし》(32.2%)は3割強となっている。

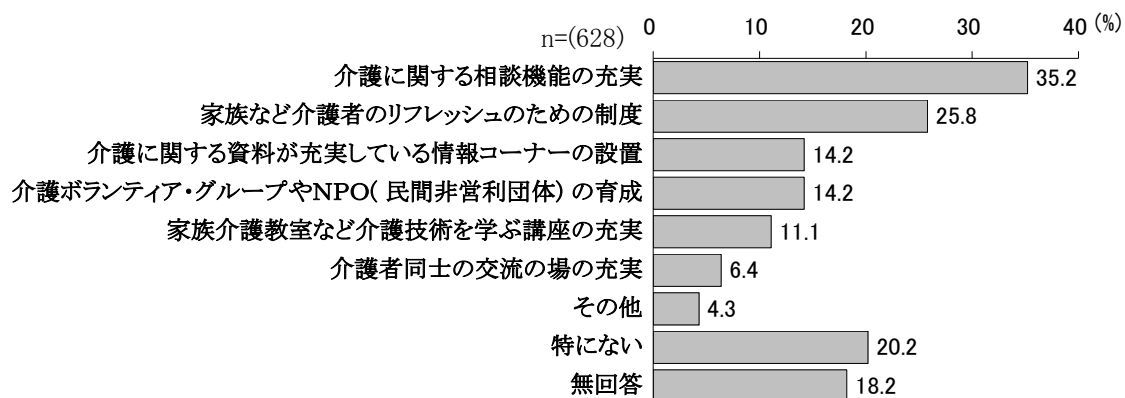
本人(宛名本人)の年齢別でみると、《負担あり》は、本人90歳以上(61.3%)で6割強と高くなっている。

認知症の有無別でみると、《負担あり》は、認知症の「ある」ほうが30.4ポイント高くなっている。

⑩新宿区に力を入れてほしいこと

問53 介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 166> 新宿区に力を入れてほしいこと



介護者への支援として新宿区に力を入れてほしいことをたずねたところ、「介護に関する相談機能の充実」(35.2%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「家族など介護者のリフレッシュのための制度」(25.8%)が2割台半ば、「介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置」(14.2%)、「介護ボランティア・グループやNPO(民間非営利団体)の育成」(14.2%)がそれぞれ1割台半ば近くとなっている。

⑪この2週間の心の状況

問54 この2週間のあなたの心の状況について、あてはまるほうをお選びください。
(それぞれ1つに○)

<こころの健康状況>

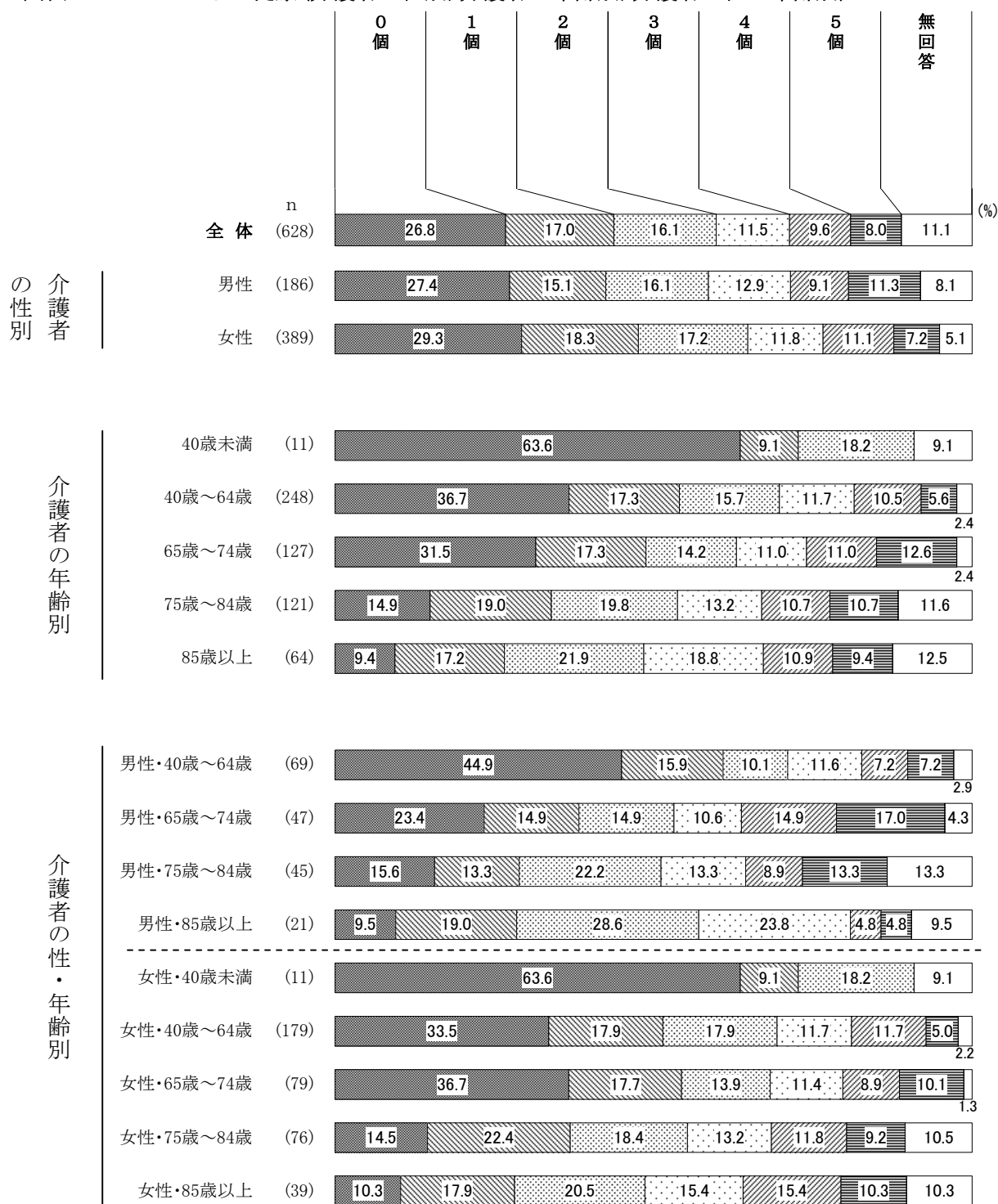
- ア. 毎日の生活に充実感がない
- イ. これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった
- ウ. 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる
- エ. 自分は役に立つ人間だと思えない
- オ. わけもなく疲れたような感じがする

こころの健康状況をたずねたところ、すべてに該当しない(0個)は2割半ばを超える。

介護者の年齢別でみると、すべてに該当しない(0個)は、40歳～64歳で3割台半ばを超え、年齢が上がるほど、減少する傾向にある。

介護者の性・年齢別でみると、すべてに該当しない(0個)は、40歳～64歳では、女性(33.5%)より男性(44.9%)のほうが、11.4ポイント高くなっている。

<図表 167> こころの健康(介護者の性別/介護者の年齢別/介護者の性・年齢別)

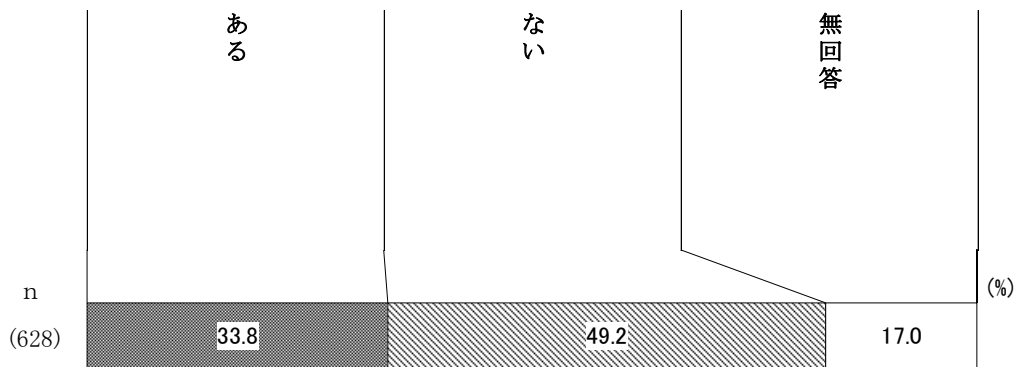


※男性・40歳未満は該当なし

⑫介護をしている方の認知症状の有無

問55 あなたが介護をしている方(宛名のご本人)には、認知症の症状がありますか。(1つに○)

<図表 168> 介護をしている方の認知症状の有無

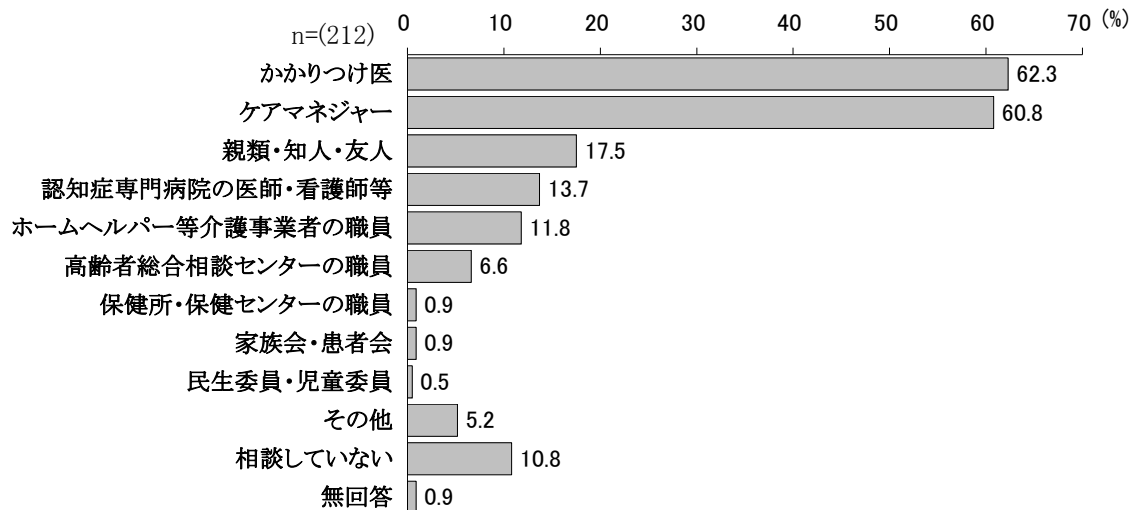


介護対象者の認知症の有無をたずねたところ、「ある」(33.8%)は3割台半ば近くとなっている。

⑬認知症の介護についての相談先

問55-1 <<問55で「1 ある」と回答した方のみお答えください>>
認知症の介護について、家族以外では誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 169> 認知症の介護についての相談先



問55で認知症の症状が「ある」と回答した人に認知症の介護についての相談相手をたずねたところ、「かかりつけ医」(62.3%)と「ケアマネジャー」(60.8%)がともに6割以上と高くなっている。

⑭高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問56 介護者の立場から、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、133人からの回答があった。回答の多かった内容は、「サービスについて」「家族等介護者について」「高齢者向け施設について」の順であった。

各事項（その他除く）について、以下にいくつかの意見を示す。

サービスについて	家族等介護者について	高齢者向け施設について	介護保険・保険料について	高齢者施策について	情報提供・相談について	認知症について	健康・介護予防について	医療・保健について	アンケートについて	災害時・緊急時のこと	その他
44	39	30	23	20	15	12	9	8	8	4	11

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【サービスについて】

- ・区職員が、全て介護の経験があるわけではないので大変だと思うが、同じ病名でも十人十色の症状であり、必要なサービスも違ってくる。そのあたりをよく踏まえて対応していただきたい。
- ・本人の体調や、意識の問題で、外に出たがらない。家に居れば、何がおこるか分からないので、私も外出ができない。デイサービスに行っている時のみ自由時間なので、外に出て参加できるサービスが増えるとありがたい。

【家族等介護者について】

- ・介護者は、全ての時間を犠牲にして日々介護を行っているのが現状である。現実的には介護休業等利用できず退職するしかない。介護者の経済的状況は深刻であり、社会的問題である。
- ・今は健康で元気なので特に不便や不都合はないが、この後病気等になった場合、老々介護になるので、不安はある。ショートステイ等で、介護者がリフレッシュ出来ることが容易にできると良いと思う。

2-2 要支援・要介護認定者調査

【高齢者向け施設について】

- ・年金の中できちんと支払える安心な入所施設を、区内に多く設置してほしいと思う。
- ・施設の充実を望む。

【介護保険・保険料について】

- ・介護保険の点数に関係なく、フレキシブルに対応してくれるシステムがないと、閉塞感でいっぱいである。
- ・多少自己負担額が上がっても、きちんと希望するサービスが受けられるようにしてほしい。

【高齢者施策について】

- ・高齢者や介護を要する人、介護をしている人への区の取り組みは充実してきていると思う。ますますきめ細やかに、弱い立場の人に対してのサポートをお願いしたい。
- ・災害時を考えて、地域ぐるみで高齢者の助け合いができるネットワークがあると良いと思う。

【情報提供・相談について】

- ・あけすけに他人に相談はできないので、現制度をまとめた冊子がほしい。自分で確認する事が第一である。

【認知症について】

- ・これまでデイサービスを利用していましたが、自ら進んで行っていたわけではなかったので、行くことがストレスになり結果やめてしまった。本人の望んでいることとサービスが一致することの難しさを感じる。本人の「他人の力は借りたくない」という気持ちが強いので、認知症が進んだ時、どのようにしたら良いか、悩みの種である。

【健康・介護予防について】

- ・何でも介護すれば良いということではなく、基本的に「自分でできる事は自分ですることが第一だ」という考え方が必要だと思う。

【医療・保健について】

- ・在宅介護を推進するのであれば、医師やそのサポート組織（ホームヘルパーや機器類の在宅設置体制等）を充実させるための予算補助等を図ってほしい。

【アンケートについて】

- ・この調査を、有効に使っていただくことを希望する。

【災害時・緊急時のこと】

- ・緊急時対応の充実を希望する。